

特217
2
323

昭和十六年年報

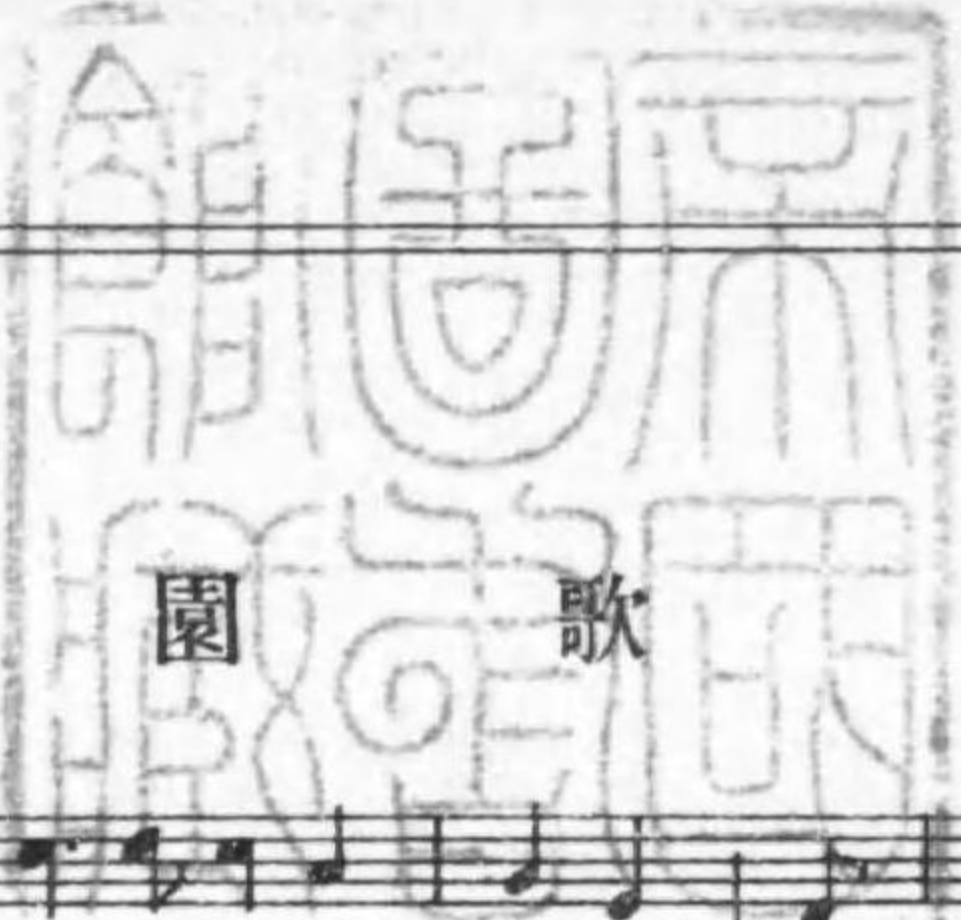


國立癩療養所 多磨全生園



始





園歌

あしたに あふべに ちちのね
 あしたに あふべに ちちのね
 あしたに あふべに ちちのね
 あしたに あふべに ちちのね

- 一、あしたに仰ぐ不二の山
 ゆふべに映ゆる秩父の嶺
 空より廣き武蔵野の
 中に我等のすまゐあり
- 二、恵も深き聖代に
 もとゐをおきて幾星霜
 歴史を語る松風に
 ふくいん高くつとふらん
- 三、その名を聞けや全生の
 住ふ村人とこしへに
 こゝろの望抱きつゝ
 共にたのしく集ひなん



療養生活五訓

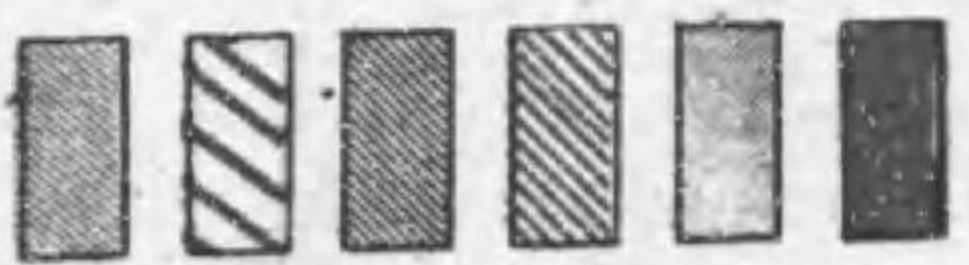
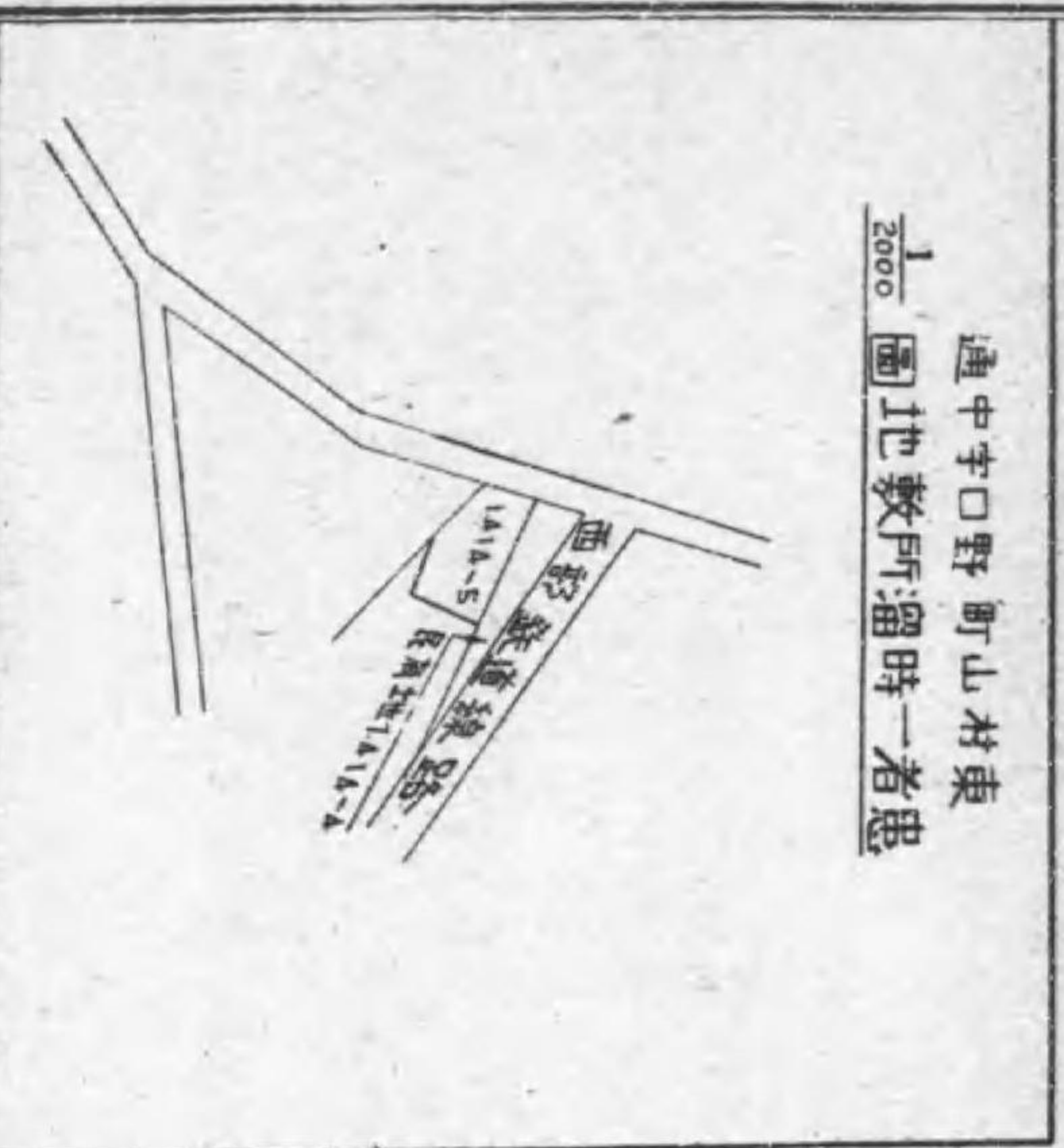
- 一、吾等ハ大御心ヲ奉體シ一意専心療養ニ勵ムベシ
- 一、吾等ハ皇軍將士ノ心ヲ心トシ困苦ヲ克服シ必勝ノ信念ヲ固ムベシ
- 一、吾等ハ相愛共助ノ精神ニ則リ人格ヲ鍊磨シ相互ノ幸福安寧ヲ圖ルベシ
- 一、吾等ハ公益優先ヲ信條トシ各々其ノ分ヲ盡シ銃後奉公ノ誠ヲ捧グベシ
- 一、吾等ハ感謝報恩ノ念ニ燃エ大政ニ協翼シ明朗健全ナル樂土ヲ建設スベシ

註 右五訓ヲ入園患者ノ教化指標トシ集會等ノ場合ニ於テ唱和セシメ現下ノ時局ニ對スル覺悟及剛健ナル精神ノ昂揚ヲ圖ル

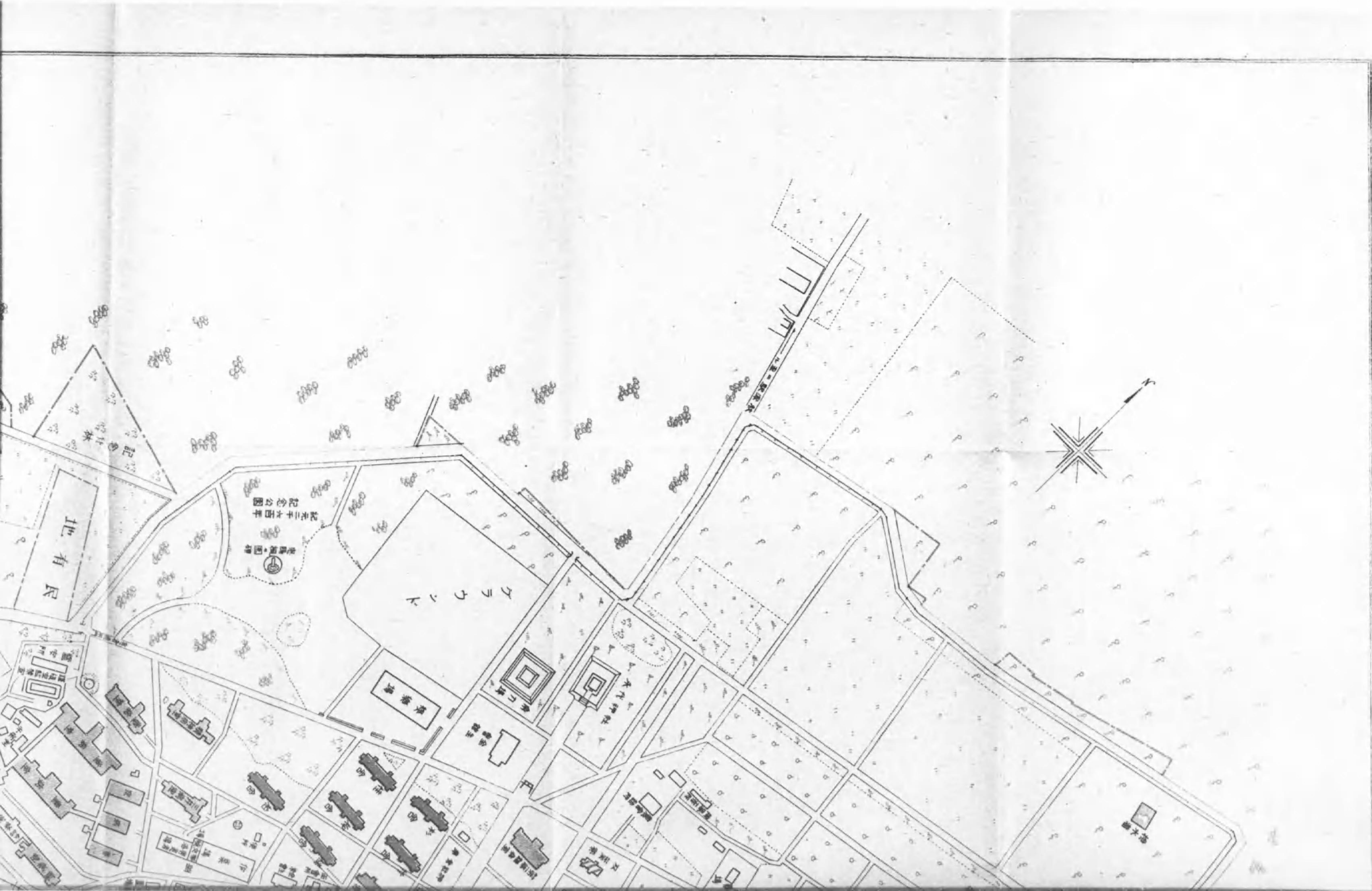
昭和拾七年七月調製

55×43

通中宇口野 町山村東
2000 圖地敷所留時一者患



町村界	———
用地界	———
地籍界	———
道垣	———
軌道	———
神社	⊙
家屋	□
井戸	⊕
沼池	■



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

民有地

記念公園
昭和二十六年
建設

グラウンド

大講堂

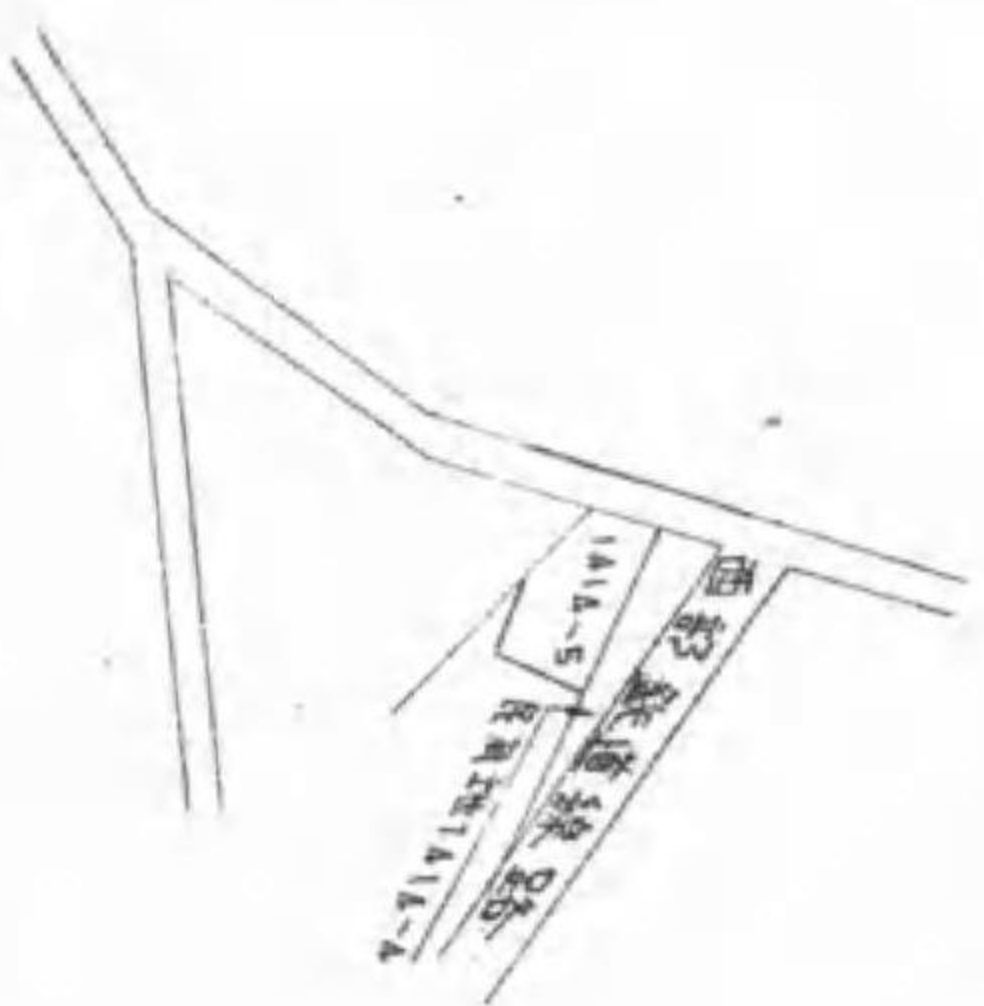
図書館

大講堂

昭和拾七年二月調製

55X43

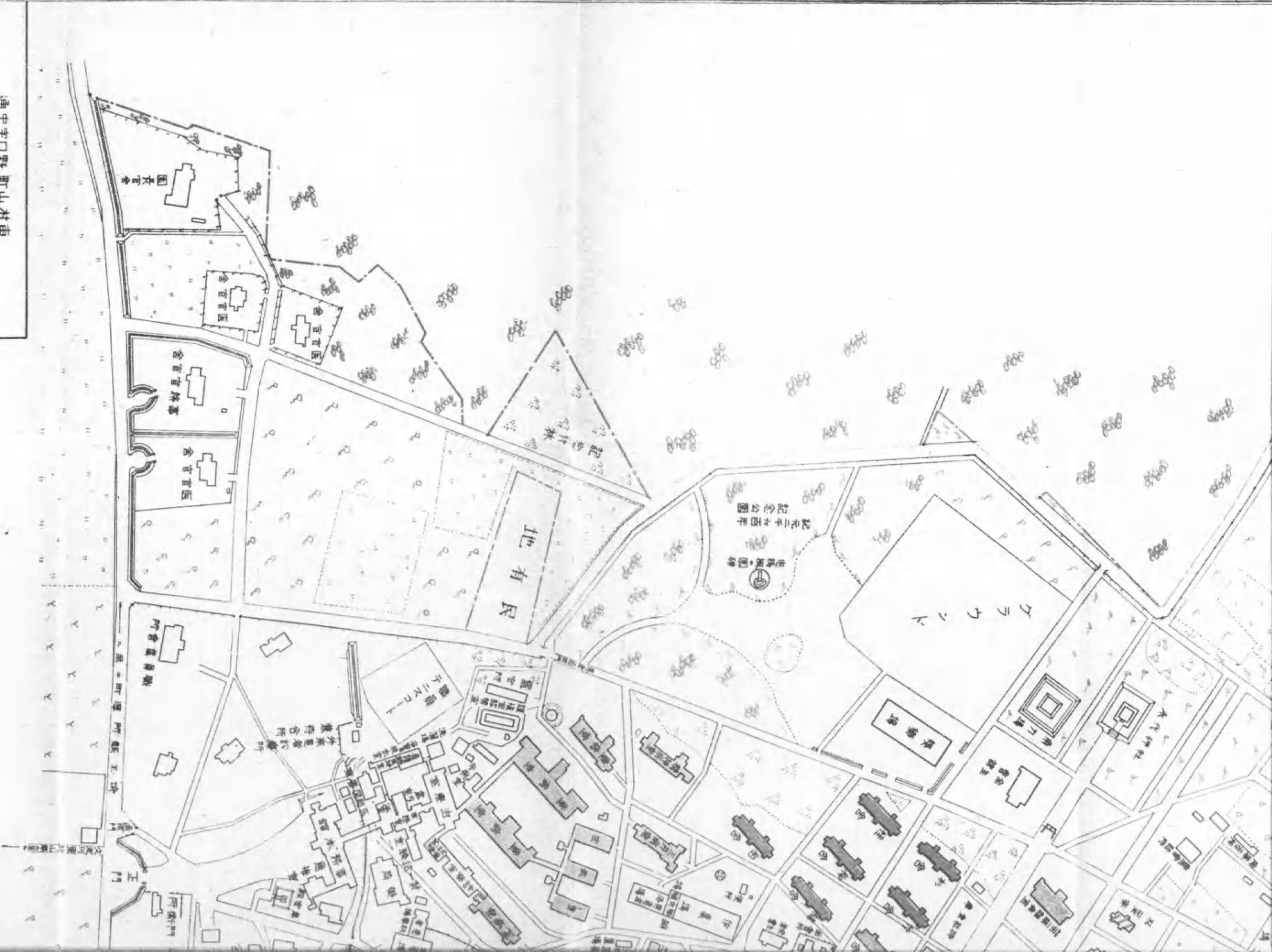
通中宇口野町山林東
2000 園地教所溜時一者患

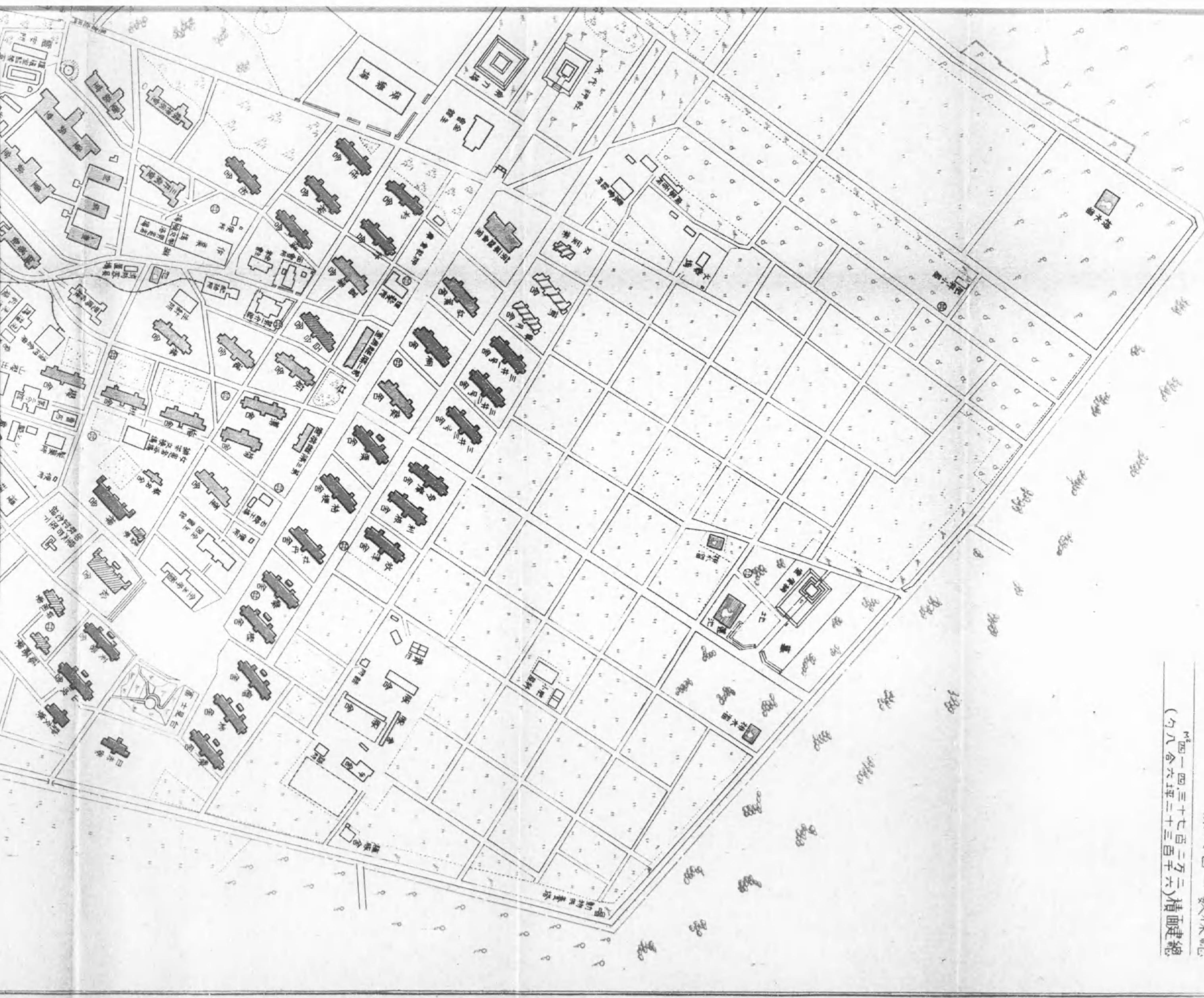


- 男 舍
- 女 舍
- 少年 舍
- 少女 舍
- 夫 舍
- 病 舍



卷之六千尺總





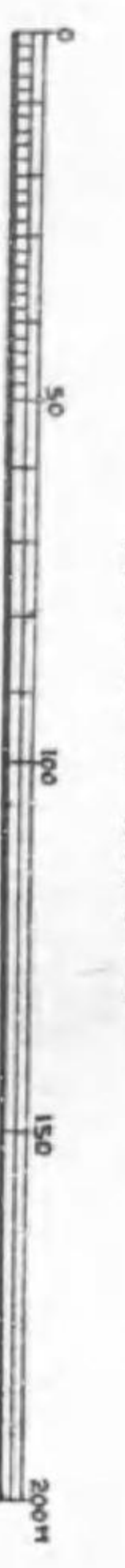
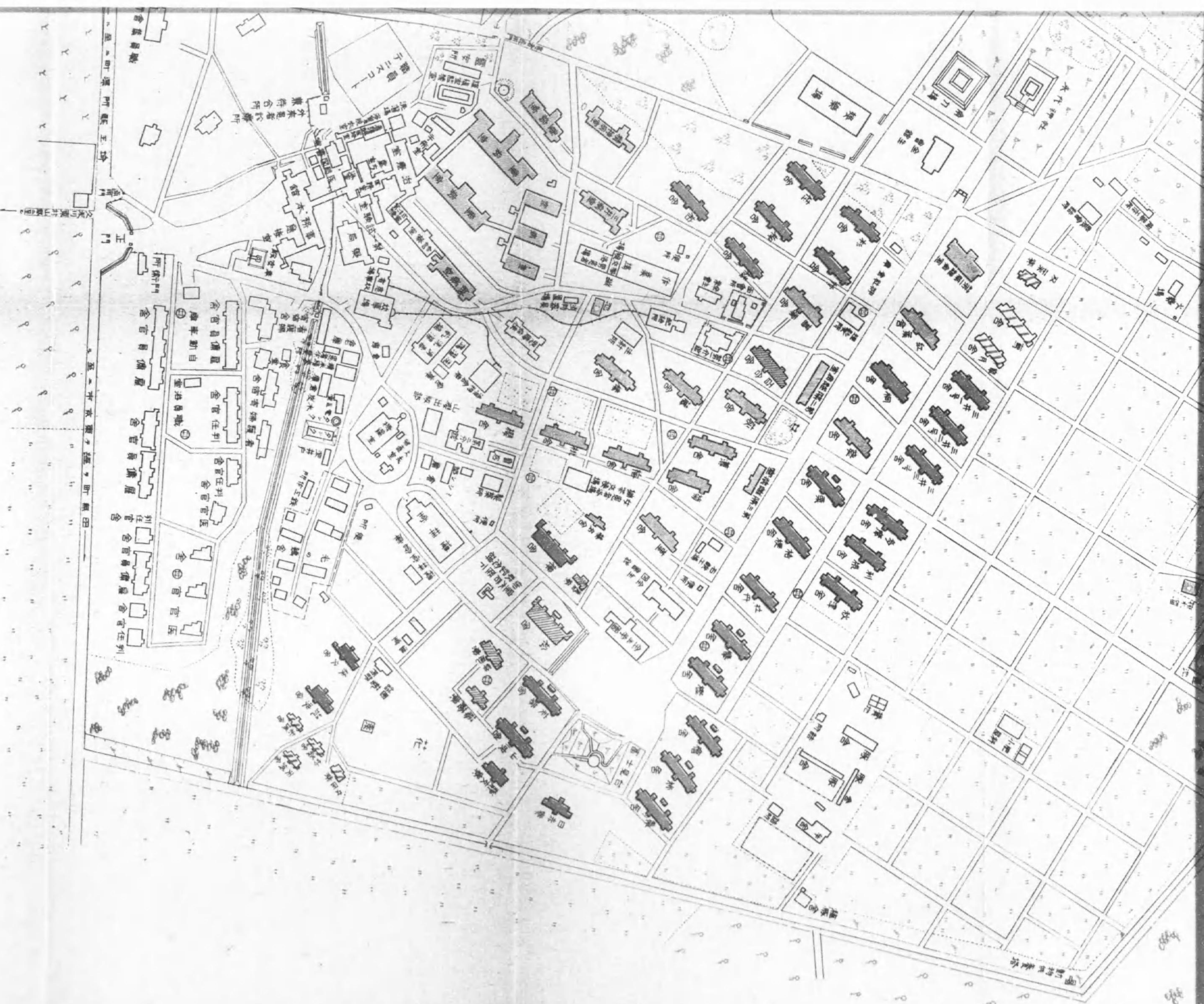
東京府北多摩郡山村町南秋津

國立多摩工業研究所全圖

總面積七十五萬七千七百七十三平方公尺
(約合四十四萬八千五百三十四畝)

棟數總計六百六十二棟

總面積三十七萬三千七百三十四平方公尺
(約合六萬三千二百三十三畝)



縮尺千分之六

例	
打村界	———
用地界	———
地籍界	———
道路	———
生垣	———
軌道	———
神社	□
家屋	□
井戸	⊕
沼地	⊖
桑畑	〰
耕作畑	〰
茶畑	〰
果樹園	〰
針葉樹	〰
落葉樹	〰
雜木林	〰
草地	〰

凡

昭和十六年七月十六日 畏クモ 皇太后陛下
ヨリ 菴羅樹御下賜アラセラル



皇太后陛下御歌

つれづれの

友となりても

慰めよ

行くことかたき

われにかはりて



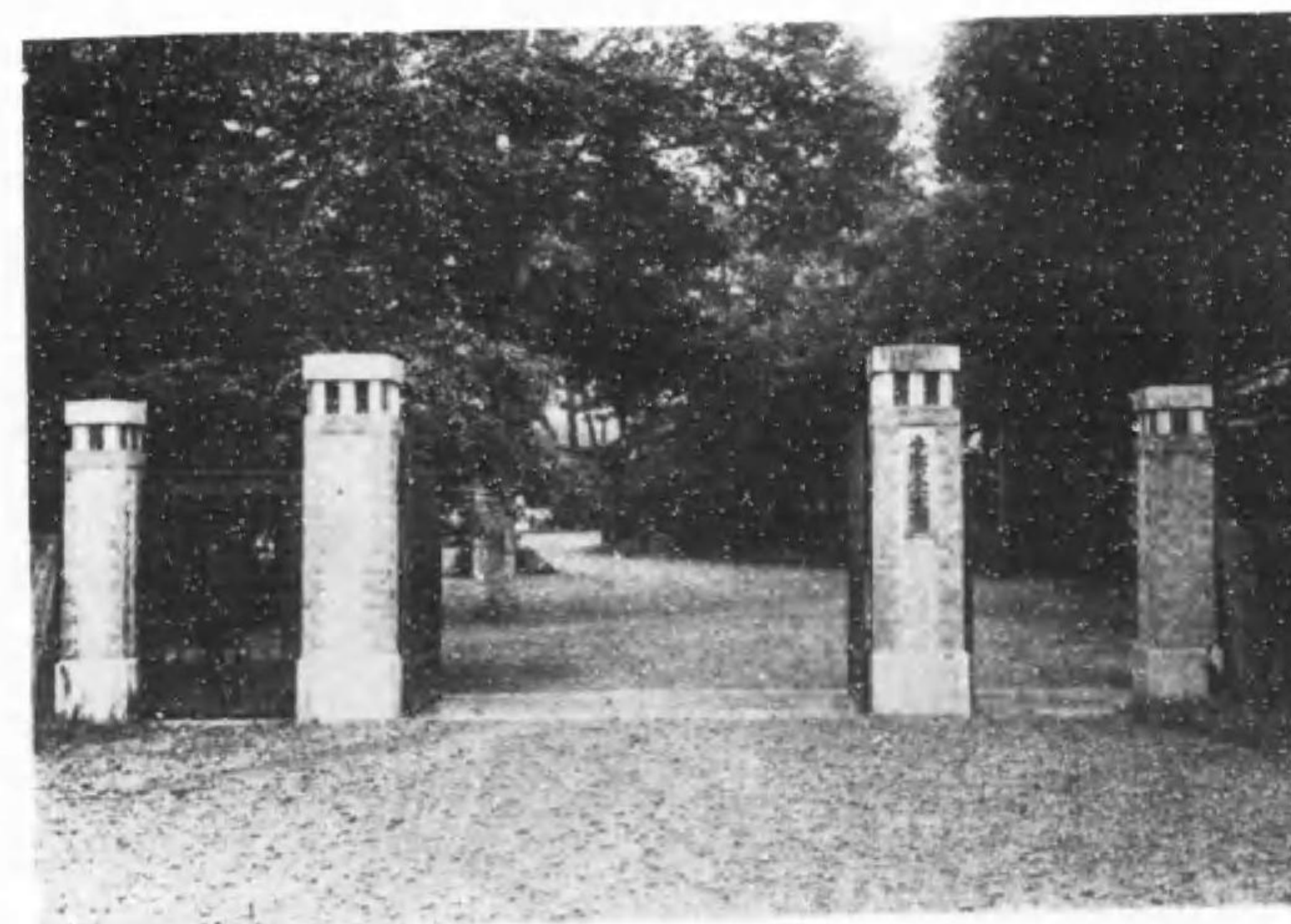
朝香宮鳩彦王殿下御來園記念



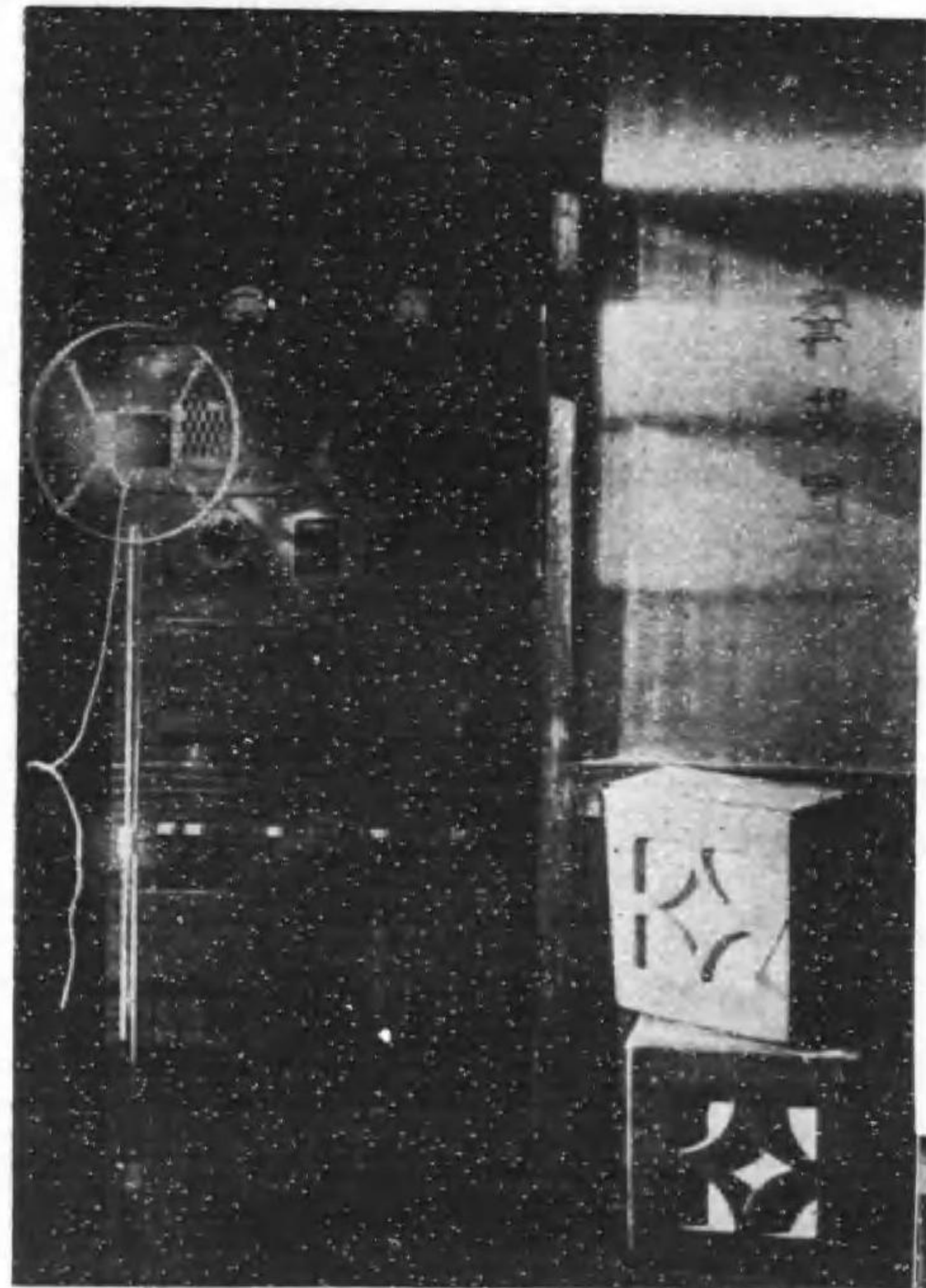
日本赤十字社寄附ノ日赤寮



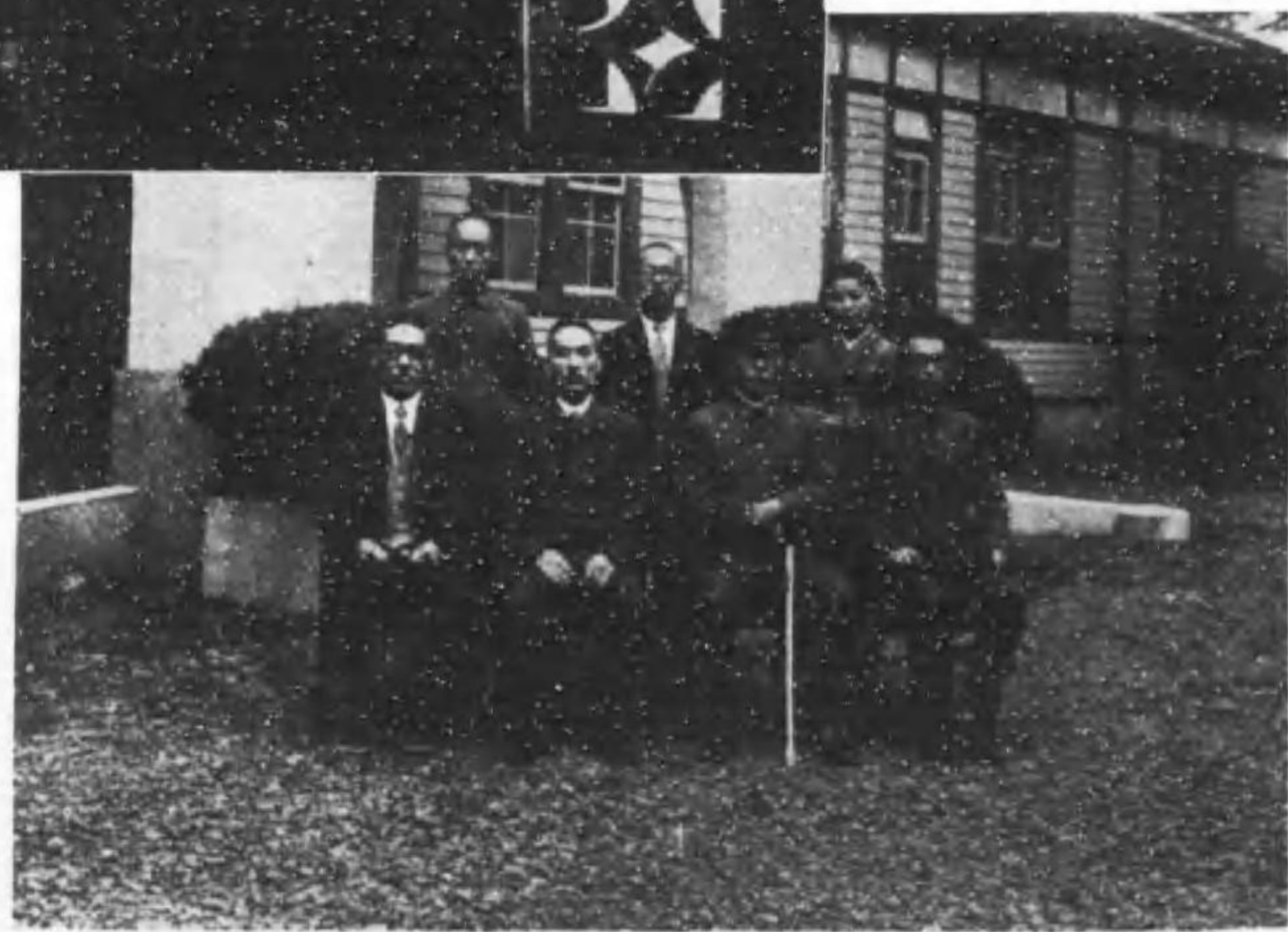
全 景



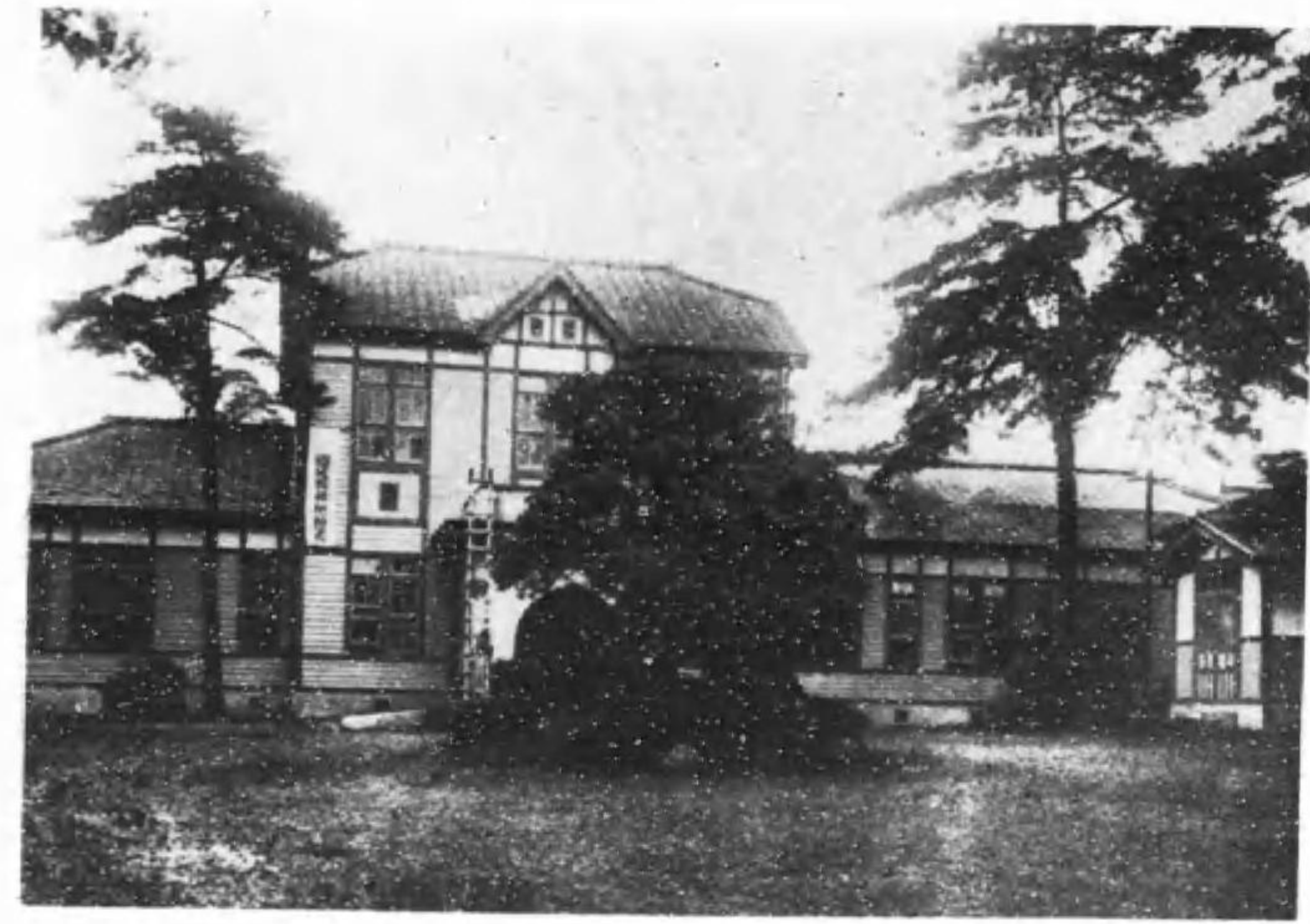
正 門



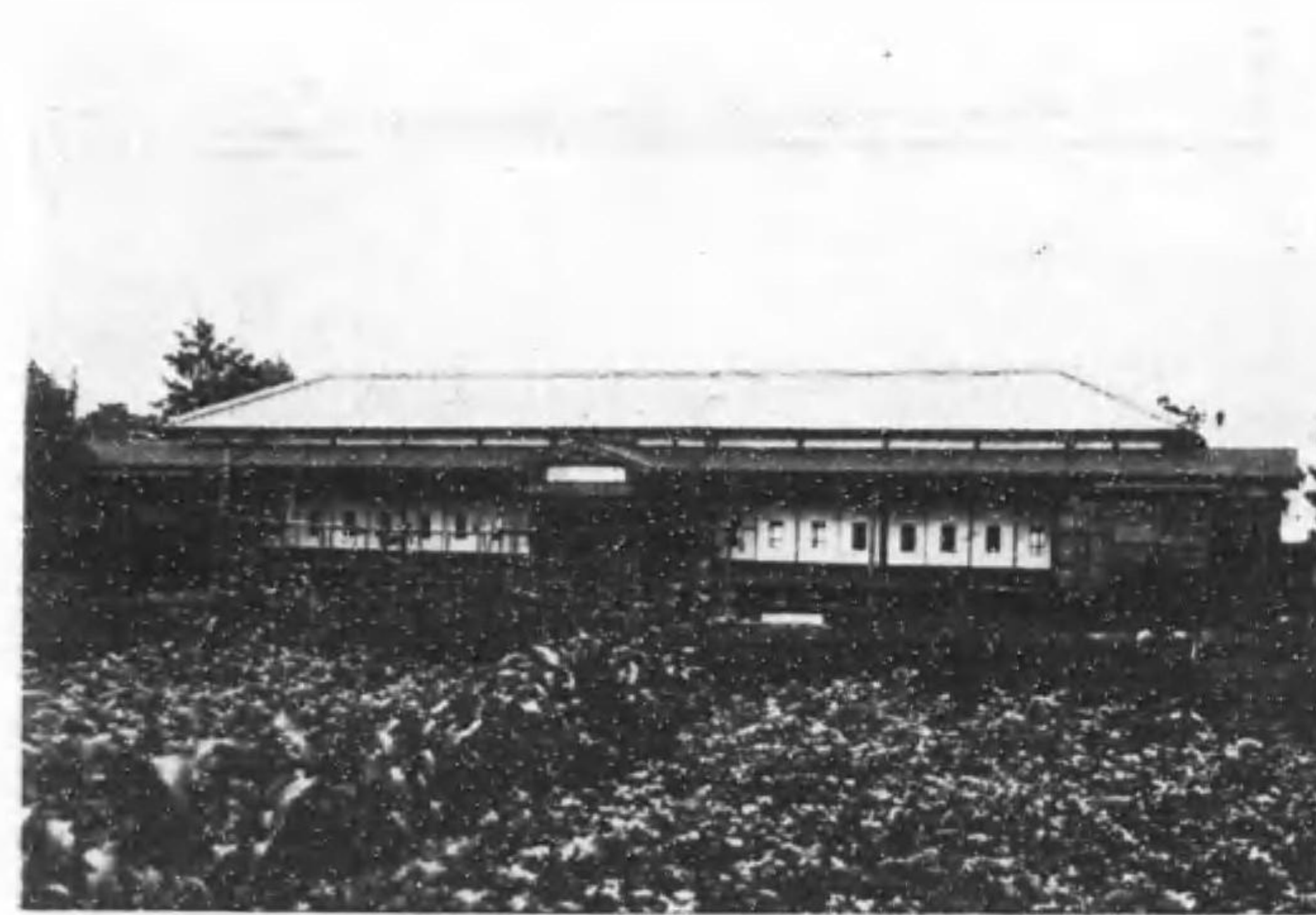
放聲裝置
 (之ニ依リテ各病棟其他
 園内全般ニ放送サル)



櫻井忠溫少將來園記念



事務本館

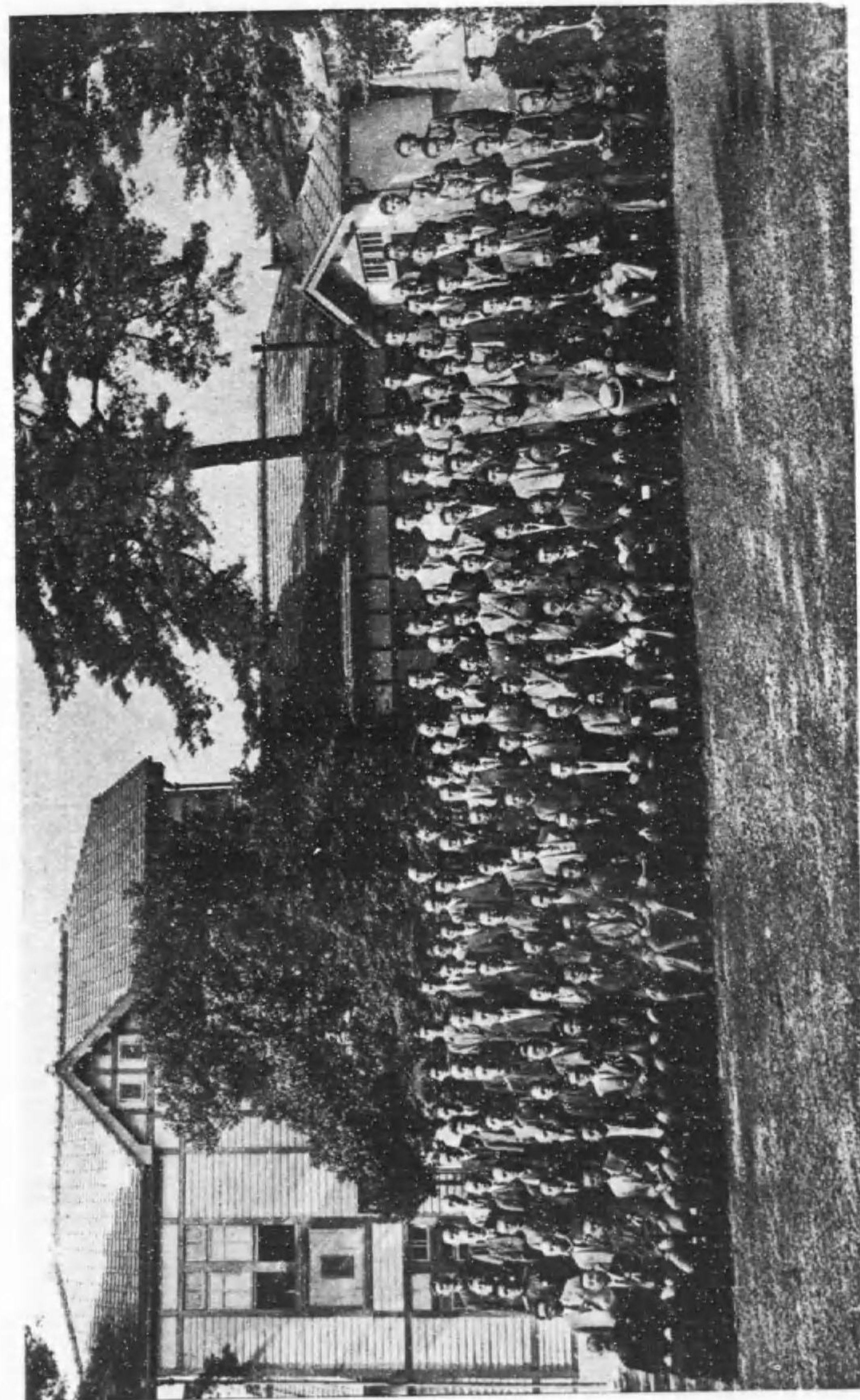


患者病棟



治療室ノ一部

入園患者治療經過

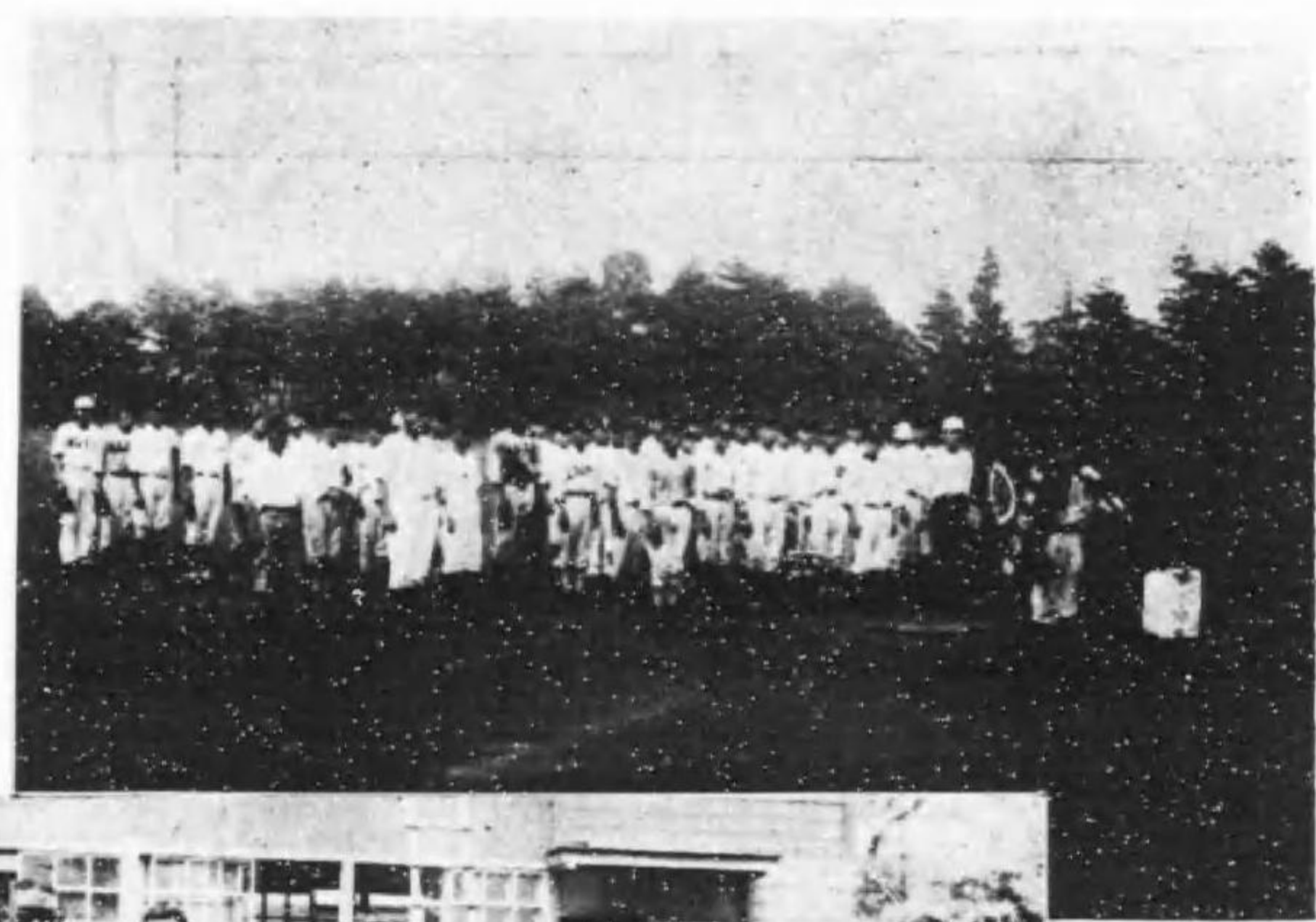


念記管移立國

特217
323

431
65

多磨全生園概況



患者野球優勝旗授與



患者栽培ノ西瓜



温室ノ一部

目次

第一	沿革	一
	收容定員増員狀況	一七
	職員異動表	一七
第二	概況	一八
	一 敷地	一八
	二 建物坪數	一八
	三 職員	一七
	四 收容患者定員及現在數	一八
	五 本年中ニ於ケル重要事項	一八
第三	總經費	一八
	一 豫算	一八
	二 決算	一七
	三 患者一人當經費	一六
第四	治療	一五
第五	患者ノ生活狀態	一五

一	衣	六
二	慰安及娛樂	六
三	風紀	六
四	教育	六
五	作業	七
六	常會	七
第六 統計		七
一	收容患者異動表	七
二	現在患者本籍地別表	七
三	現在患者發病年齡別表	七
四	患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數別表	八
五	現在患者病型年齡別表	八
六	死亡患者病型年齡別表	八
七	死亡患者病名年齡別表	八
八	發病以來死亡迄ノ經過年數別表	九
九	現在患者發病當時ノ職業別表	九
一〇	現在患者前科者調表	九
附 一	國內社會事業團體	一

第一沿革

開院當初

一、本院ハ明治四十年法律第十一號ニ基キ同年內務省令第二十號ヲ以テ東京、神奈川、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、愛知、静岡、山梨、長野ノ一府十一縣ヲ聯合區域ト定メ創設シタルモノニシテ時ノ東京府知事阿部浩ハ療養所所在地ノ故ヲ以テ本院管理知事トシテ明治四十年十月創設費豫算ヲ編成シ聯合府縣ノ各代表者ト會合シテ費用ノ支出分擔方法ヲ議定シタルモ豫防法實施期日改正ノ結果遂ニ實行ヲ見ル能ハサリシヲ以テ明治四十一年三月更ニ之ヲ議定スルニ至レリ

明治四十二年

一、越エテ明治四十二年二月ニ至リ東京市ヲ距ル西方八里十五町所澤ヲ離ル、東南方約一里田無街道ニ沿ヘル東京府北多摩郡東村山村大字南秋津字開發地内ナル林野三萬七百八坪ヲ敷地ニ選定シ同年四月工ヲ起シ建築ニ著手セリ同月東京府屬大野德太郎ハ本院長事務取扱ヲ命セラレ次テ各醫員、調劑員、書記等ノ任命アリ同年九月光田健輔ハ本院醫長ヲ命セラレタリ

- 一、同年九月設備セシ建物左ノ如シ
- 一號 館(事務所) 一棟 六八坪五
- 二號 館(治療所) 一棟 三〇坪

三號館(治療所) 一棟 五四坪 試驗室 一棟 一八坪
 輕症舍 一二棟 四八六坪七五 重症舍 一棟 五〇坪五
 隔離病舎 一棟 二七坪五 屍室(解剖室) 一棟 八坪
 禮拜堂 一棟 七二坪 浴場(欄帶交換所兼用) 一棟 二五坪
 蒸汽機關室(附洗濯場) 一棟 三〇坪 炊事場 一棟 四二坪
 職員舎宅 五棟 二四四坪七五 物置 二棟 一五坪
 門衛所 一棟 一三坪七五 職員浴室 一棟 五坪
 汚物焼却場 一棟 三坪

一、明治四十二年九月二十八日諸般ノ準備略ホ整理ヲ告ケタルヲ以テ開院式ヲ舉行セリ然レトモ其ノ設備未タ全タカラサルヲ以テ一時東京府荏原郡目黒村私立慰廢園ノ一部ヲ借りテ假收容所ニ充テ其ノ間ノ事務ハ東京府廳内ニ於テ處辨セラレタリ越エテ十月十八日ニ至リ始メテ本院内ニ於テ事務ヲ開始シ收容患者ヲ移スト同時ニ聯合府縣ノ送致ニ係ル患者ヲ順次收容スルニ至レリ

明治四十三年

一、三月大野東京府屬ハ院長事務取扱ヲ解カル、ト同時ニ休職千葉縣市原郡長池内才次郎本院長ヲ命セラレ同年六月院長專務トナレリ
 一、明治四十三年勅令第三百四十六號癩療養所職員制發布ニ依リ同年十月池内才次郎ハ療養所長ニ任セラル、ト同時ニ本

院長ニ光田健輔ハ療養所醫長ニ任セラル、ト同時ニ本院醫長ヲ命セラレ其ノ他醫員、調劑員、書記何レモ任命セラレタリ

一、同年度中ニ於ケル補充設備ノ箇所左ノ如シ

患者作業場兼娛樂所	一棟 八〇坪	特別室	一棟 一六坪二五
裁縫所兼物品藏置所	一棟 二五坪	通用門駐在所	一棟 一坪七五
看護人寄宿所	二棟 三一坪	浴場ノ増築	二箇所 一〇坪
機關手及雇員住宅	一棟 六〇坪	隔離病舎看護人控所及浴場	二棟 七坪
藥庫及器具消毒室	一棟 二〇坪	患者共同便所	一棟 一坪
手術室	一棟 九坪	看護人駐在所	一棟 七坪七五

明治四十四年

一、本年中ニ於テ補充セシ建物ハ

火葬場 一箇所
 此ノ敷地一五〇坪 建坪一二坪ナリ

一、明治四十五年ヨリ患者百五十人増員ノ計畫ヲ立テ増員ニ對スル建築費及救護ニ要スル一切ノ經費豫算ヲ計上シ聯合府縣協議會ニ提出シタル結果差當リ現在ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シ明治四十五年四月ヨリ之ヲ實行スルコト、ナレリ。

大正二年

一、本年ニ於テ補充設備セシ建造物ハ左ノ如シ
 重症舎 一棟 四〇坪
 物品交附所兼物品藏置所 一棟 一〇坪

洗濯仕上ケ所兼乾燥室 一棟 一〇坪

四

大正三年

一、二月十九日院長池内才次郎ハ願ニ依リ本職ヲ免セラレ同日醫長光田健輔ハ療養所長ニ補セラレ同時ニ本院長ヲ命セラレタリ

大正四年

一、本年度ニ於テハ從來ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シテ四百人トナスコト、ナリタリ然ルニ大正四年八月ノ豫算協議會ニ於テ聯合府縣當事者ハ御即位ノ大典ニ際シ尙ホ市内各所ニ癩患者ノ浮浪スル者アラムコトヲ慮リ遺憾ナク收容スヘキ決議ヲナシタリ然レトモ如何セン本年度増員ノ爲メ已ニ病舎ノ狹隘ヲ告ケ居ル際ナルヲ以テ十月中ニ四十二坪五合ノ一棟ヲ増設スルノ已ムナキニ至リタルヲ以テ急キ工事ニ著手シ十月末ニ落成セリ依ツテ十一月ノ御大典ノ際ニハ四百二十餘人ヲ收容シ得ルコト、ナリ同年十二月一日ニハ其ノ收容數實ニ四百二十四人ヲ算セリ
 同年度設備セシ建築物寢具被服日用器具ノ他ニ炊事場ノ改善ヲ施シ從來ノ薪炭ヲ廢シ鈴木式蒸汽炊事竈六箇ヲ裝置シ床面ノ「コンクリート」ヲ撤シテ花崗石トナシ尙一坪五合ノ増築ヲナシタルニ清潔ニシテ且ツ經濟的ナルノミナラス尙將來ニ向ツテ多少ノ餘裕ヲ存スルヲ得タリ
 其ノ他豚小屋五坪ノ増設、生垣二百間ノ新設ヲナセリ

一、本院ニ於テハ從來職員退職給與金支給ノ規定ナカリシヲ以テ聯合府縣ノ協議ヲ經テ大正四年度ヨリ施行スルコト、ナレリ

一、本院患者墓地ニハ是迄墓石ノ設ケナカリシカ大正五年東京市淺草東本願寺ヨリ墓碑一基ヲ寄附セラレタルヲ以テ七月之レカ建設ニ著手シ九月ニ至リ其ノ落成ヲ告ケタルニヨリ同月二十二日秋季慰靈祭ヲ兼ネ除幕式ヲ舉行セリ

大正六年

一、本年度ニ於テ從來收容定員四百人ノ外更ニ患者百人増員ノ豫算可決セルヲ以テ増員ニ必要ナル諸建物ノ建築ニ著手シ同年十二月迄ニ左記建物ノ落成ヲ見タリ

輕症舎 三棟 一三二坪 重症舎 一棟 四〇坪
 寢具被服物置 一棟 一〇坪

更ニ引續キ 醫員調劑員舎宅 一棟 三三坪 看護人舎宅 一棟 二九坪五

看護人寄宿所増築(在來ノ建物ニ建テ繼キ) 六坪

ノ諸建物落成ヲ見タリ

尙此外汽罐室ヲ増築シ蒸汽機關一臺ヲ据付クヘキ豫定ノ處物價騰貴ニ伴ヒ既定豫算ニテハ建築及汽罐ヲ購入スルコト能ハサルニ依リ止ムナク汽罐室増築ハ大正七年度ニ延期シ機關一臺ノミヲ購入シタリ

大正七年

五

一、本年度ニ於テ落成シタル建物左ノ如シ

汽 罐 室	一棟 一二坪	消毒用機關室増築 <small>(在來ノ建物ニ建テ繼キ)</small>	九坪
豚 小 屋	一棟 五坪五五	炊事場物置	一棟 一〇坪
醫 務 室	一棟 二二坪	醫務室附屬渡廊下	五坪

一、大正八年度ニ於テハ三號館(治療室)ノ模様替ヲ爲シタル外特記スヘキ事項ナシ

大 正 十 年

一、本年度ニ落成シタル建物左ノ如シ

製藥消毒兼試驗室	一棟 一六坪	物品交附所	一棟 三坪七五
脫 衣 所	一棟 五坪		

大 正 十 一 年

一、本年度ヨリ患者百人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十年九月上旬聯合府縣當事者ハ東京府廳ニ會合シ十年度追加豫算建築費拾八萬千四百拾四圓、初度調辦費金壹萬貳千貳百五拾貳圓九拾五錢ヲ可決セリ依テ先ツ以テ敷地ヲ擴張セシカ爲メ現在敷地ニ接續セル東南方山林及畑地二萬三百五十三坪ヲ同年十二月買收セリ然レトモ建築工事ハ時日僅少ナリシカ爲メニ同年度内ニ著手スルノ運ヒニ至ラザリキ

大 正 十 二 年

一、院長光田健輔ハ內務省ヨリ臨時衛生局事務ヲ囑託セラレ大正十二年七月佛國ニ於テ開催ノ萬國癩會議ニ本邦代表者トシテ出席ヲ命セラレ且東京府ヨリハ佛國へ出張ノ序テヲ以テ歐米各國ニ於ケル癩豫防事務觀察ヲ命セラレ同年六月六日渡歐ニ付同月四日院長不在中東京府庶務課長理事官土岐銀次郎ハ院長事務取扱ヲ命セラレタリ

一、大正十三年ヨリ患者百五十人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十一年九月聯合府縣當事者東京府廳ニ會合シ十一年度追加豫算建築費八萬參千五百六拾貳圓五拾錢初度調辦費貳萬貳千圓ヲ可決セリ然レトモ建築工事ハ前年度ヨリ繰越工事多ク且時日僅少ナリシヲ以テ同年度内著手ノ運ヒニ至ラスシテ大部分十二年度ニ繰延タリ尙患者百五十人増員ニ伴ヒ敷地ノ狹隘ヲ感セルヲ以テ十二年三月現在敷地ニ接續セル東方山林四千六百六十四坪ヲ買收セリ

一、大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方ニ起リタル大震災ノ爲メニ本院ノ蒙リタル被害左ノ如シ

一號館(事務所) 二、三號館(治療所) ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落甚タシ
 藥劑庫及器具消毒室(藥室) ヨリ發火シタルモ直ニ消シ止メタリ原因ハ貯藏藥品ノ顛覆破壊シタルニ由ル
 收容患者ハ直ニ院內及庭園中央ニ避難セシメ幸ニ壹名ノ死傷者モナシ
 輕症舍禮拜堂並ニ重症舍及新病舍診察室(十二年新築) ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落箇所甚タ多シ
 患者作業所兼娛樂所壹棟(八拾坪) ハ倒潰シ折柄該室內ニ於テ作業中ノ患者六名壓セラレタルモ直ニ匍ヒ出テ事ナキヲ得タリ

井戸水ハ一時白色ニ混濁シタルモ飲料ニ支障ヲ生セス
 舊蒸汽機關ハ煉瓦崩壞ノ爲メ使用シ得サルモ他ノ汽罐(大正八年建設ノモノ)ニ故障ナカリシヲ以テ辛ウシテ食料品支給並ニ消毒用ニ使用差支ナキヲ得タリ
 建設中ノ汽罐ハ周圍ノ煉瓦ニ龜裂ヲ生シ前方へ突出シ大煙突モ亦中央部ニ龜裂ヲ生シタル箇所アリ

職員舎宅ハ瓦ノ破損壁ノ墜落箇所甚タ多シ
火葬場ハ煉瓦崩壊シ全ク使用ニ堪ヘス

一、大正十一年及十二年中落成シタル建物左ノ如シ

(十一年中)

醫務室附屬便所	一棟 一坪	同上廊下	一棟 一二坪
輕症舎	三棟 一三二坪		

(十二年中)

一時收容病室及重病室	一棟 九四坪五	炊事場物置	一棟 一〇坪
同 附屬便所	一廉 一四坪	動物小舎標本置場	一棟 一二坪
同 附屬洗面所	一廉 二坪	火夫宿直室	一棟(三戸) 三〇坪
同 附屬臺所	一廉 三坪	火夫宿直室	一棟 六坪
同 附屬廊下	一廉 九坪五	患者共同便所	二棟 三坪
診察室	一棟 一三坪	看護婦寄宿所増築	一棟 一〇坪
患者面會所	一棟 六坪		

大正十三年

本年中落成シタル建物左ノ如シ

輕症舎	五棟 二二〇坪	醫務室附屬渡廊下	一棟 六坪
-----	---------	----------	-------

汽罐室	一棟 二四坪	洗濯所	一棟 一〇坪
水槽	一基	寢具被服物置	一廉 二坪
監視所	一棟 二坪	患者作業所	一廉 三坪
女患者浴場及繃帶交換所	一棟 三五坪	看護人駐在所増築	一廉 九坪五
醫務室増築	一棟 一六坪五	醫員舎宅	一棟 一三坪
隔離病舎	一棟 六〇坪	消毒用機關室増築	各一ヶ所 四坪五
炊夫宿直室	一棟 六坪二五	患者食品配給所	一棟 一二坪
渡廊下(普通病室ト收容病室トノ間)	一ヶ所 五坪五	火葬場	一棟 一二坪

大正十四年

一、十月東京ニ於テ開催セラレタル極東熱帯醫學會及國際聯盟各國衛生技術官交換會議ニ列席ノ各會議員來院親シク視察ヲ了セラル

一、本年中落成シタル建物ハ左ノ如シ

表門 鐵筋混凝土造(鐵扉付)	一基	禮拜堂	一棟 一二八坪
職員浴場(増築)	五坪		

大正十五年

一、六月八日書記横田久ハ癩療養所主事奏任待遇ニ補セラレ同日全生病院主事ヲ命セララル

一、二月九日新禮拜堂ノ開堂式ヲ舉行シ舊禮拜堂ニ安置セル御神體ヲ奉遷シ次テ三月五日ニ眞宗五月二十日ニ日蓮宗六月四日ニ眞言宗ト順次各本尊ヲ新禮拜堂ニ遷シ各本山並ニ宗務院ヨリ高僧ヲ派遣セラレ莊嚴ナル遷佛式ヲ行ヘリ

一、十一月十一日午前一時頃輕症舎松舎一號室ノ押入附近ヨリ發火シ同舎一棟(四十三坪五合)ヲ燒失セルモ患者中一名モ負傷者ヲ出サ、リシハ不幸中ノ幸ナリキ

一、本年中新築セル建物

應接所兼參觀人控所 一棟 二二坪 應接附屬便所並ニ渡廊下 六坪

昭和二年

一、患者收容數年々増加スルニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ヲ生シ三月中地主ト協議ノ上隣接民有地貳萬五千六百拾參坪ヲ買收セリ

一、同年中落成ノ建物ハ左ノ通り

看護長舎宅 一棟 一六坪五 職員浴場増築 二坪五

雇員及調劑助手舎宅 一棟 三〇坪 重症室改築 四〇坪

輕症舎(盲人舎) 一棟 六一坪一六六 同 廊下 一三坪

重症舎ハ開院當時ノ建築ニカ、リ腐朽甚シク到底患者ヲ收容シ得サルヲ以テ患者ノ手ニ依リテ之ヲ改築スルト同時ニ患者炊事場二〇坪ノ新築ヲナシタリ

昭和三年

一、收容患者百五十名増員ノ爲メ左ノ建物ヲ増築セリ

重症舎 一棟 一三一坪 醫局及圖書室 一棟 二四坪

同 渡り廊下 一五坪 醫員調劑員、書記舎宅 三棟 四九坪五

輕症舎 五棟 二二〇坪 看護婦寄宿所 (増築) 一三坪

同 附屬物置 五棟 一〇坪 職員浴場 (増築) 二坪五

寢具及被服物置 一棟 一五坪 井 戶 三箇所

炊事場物置 一棟 一五坪

一、尙患者ノ手ニヨリ重症舎一棟(四〇坪)ヲ改築更ニ輕症舎七坪五合ノ増築ヲ行ヒ患者作業場四八坪ノ増築ニ著手セリ

昭和四年

一、本年中落成シタル建物ハ左ノ通り

汽 罐 室 一棟 三九坪 看護人駐在所 (移轉模様替) 八坪七五

汽 罐 用 井 戸 ポ ン プ 室 (改築) 六坪 (増 築) 三坪

診 察 室 一棟 四二坪 診察室附屬渡り廊下 一棟 三坪五

試 驗 室 一棟 二四坪 二號館及手術室 (模様替) 四二坪

同 附屬渡り廊下 二坪 事務所小使室 (増 築) 二坪

藥庫及製藥消毒兼試驗室(増築模様替) 六坪七五 醫員舎宅浴場 (増 築) 一坪五

前試驗室 (移轉模様替) 一八坪 脫衣所兼浴場 (増築模様替) 一七坪五

空氣瓦斯タンク置場 一棟 三坪
 物品交附所兼物品藏置所(移轉模様替) 一三坪七五
 自動車車庫 一棟 一二坪
 看護婦食堂 一棟 一七坪五

同所 (増築) 七坪五
 娛樂室 (増築) 四八坪
 繙帶交換所 (模様替) 三三坪五
 輕症舎 (菊舎増築) 七坪五

一、本年中ノ施設トシテ試験室ノ増築ヲナスト共ニ理化學的療法ノ設備ヲナシ、追加豫算ニヨリ排水工事ヲ完成シ又給水方法トシテ深度三五〇尺以上ノ鑿泉ト壓搾「タンク」ヲ新設セリ
 防火設備ノ爲メ院内ニ消火栓ヲ敷設シ又消毒物ノ完全ヲ期センカ爲メ汽罐ノ増設ヲナシ、消毒場、洗濯場、乾燥室等ノ改築ニ著手セリ

從來患者ノ輸送ニ際シテハ一方ナラサル不便ヲ感セシヲ以テ患者輸送自動車壹輛ヲ購入シ收容ノ際ハ品川、赤羽、三河島、八王子、兩國等ノ各驛マテ出向セシムルヲ以テ多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ

一、本年新ニ消防團、少年團、少女團等ヲ編成シ制規ノ服裝ヲナサシメ輕快ナル動作ニヨリ院内ノ奉仕作業ニ從事セシメ一般患者ノ品性ヲ陶冶風紀ノ改善ニ努力セリ

一、患者ハ從來其ノ所在ヲ他ニ漏レサル様苦心シ種々偽名ノモトニ家族等ト音信ヲナシ來タリシモ、本年新ニ郵便局内ニ私書函ヲ設置シ又送金ヲ便ナラシムル爲メニ病院名ノ記載ヲ省キ特ニ「秋津クラブ」ヲ名稱ヲ付シ振替口座ニ加入シタルヲ以テ患者並ニ家族ハ非常ニ喜悅シ安心シテ通信スルニ至レリ

一、九月二十八日ハ本院創立滿二十周年ニ相當スルヲ以テ之カ記念式ヲ舉行セリ

昭和五年

一、皇太后陛下ニハ夙ニ痲病者ヲ御憐憫畏クモ日々ノ供御並ニ御調度品ヲ御節約遊ハサレ十一月十日 昭憲皇太后陛下ノ御名ニ於テ收容患者慰安ノ爲金五千圓ヲ御下賜アラセラレ尙ホ多年本病者ノ救療ニ從事シタル職員ニ對シ金品御下賜ノ恩命アリ十二月六日東京府廳ニ於テ傳達式ヲ舉行セラル其ノ光榮ニ浴シタル者院長光田健輔外十三名ナリ

一、收容患者定員ハ九百人ナルモ常ニ千有餘人ヲ收容シ尙ホ聯合府縣ヨリノ申込數常ニ五十名ヲ下ラス直接入院希望者亦益々増加セルヲ以テ八月ノ各府縣協議會ニ於テ來年度ヨリ百人ノ増員ヲ可決シ之ニ伴フ重症舎一棟患者住宅三棟ノ増築ニ著手セリ

一、同年中落成シタル建物ハ左ノ通り

柳筒室 一棟 八坪
 洗濯場、消毒場、裁縫場、未消毒既消毒品置場、乾燥室 二階建一棟 七二坪
 屍室及汚物置場 (増築模様替) 一二坪
 隔離病舎 (増築) 一棟 六七坪

昭和六年

一、三月十六日院長光田健輔ハ本職ヲ免セラレ國立癩療養所長島愛生園長ニ轉補セラレタルヲ以テ東京府衛生課長輕部修伯院長事務取扱ヲ命セラル五月五日職員林芳信醫長ニ任セラレ同日院長ヲ命セラル、ト同時ニ輕部院長事務取扱其ノ職ヲ解カレタリ

三月二十五日職員林文雄本職ヲ免セラル、ト同時ニ長島愛生園醫官ニ補セラレタリ其ノ他醫務囑託員、雇員、看護人ニシテ長島愛生園ニ轉シタル者五名アリ

一、敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ經テ七月現在敷地ノ北方ニ接續セル南秋津字中原山林九千四百七十三坪ヲ買收シタリ

一、定員増加並ニ移動

三月二十五日患者男女合計八十一名ヲ國立長島愛生園ニ移送シタリ
本年度ニ於テ收容定員百名増加シ千名トナリタルヲ以テ輕症舍三棟、重症舍一棟ノ増築ヲナシ患者ノ補充ニ力ヲ致シ一箇年間ノ收容數ハ實ニ二百五十名ニ及ヒ年末現在數千九十二名ニ達シタリ如斯多數患者ヲ收容シタルコトハ開院以來未タアラサリキ

一、財團法人全生互惠會ノ設立

畏クモ 皇太后陛下ニハ常ニ痲事業ニ關シ御軫念遊ハサレ昭和五年十一月十日痲患者及ヒ多年本事業ニ從事セル職員ニ對シ御下賜金並ニ御下賜品ノ事アリ本院ニ於テハコノ有難キ恩召ヲ記念センカ爲メニ御下賜金ヲ基トシ諸般ノ寄附金、收容患者ノ設立ニカ、ル全生賣店、農會試作部、山櫻出版部、互惠部等ノ積立金品ヲ合シ財團法人全生互惠會ヲ設立シ其ノ筋ニ願出タル所四月二十五日付許可セラレタルヲ以テ六月二十六日多數名士ノ來院ヲ得テ設立祝賀式ヲ舉行セリ

一、看護人看護婦講習所設立

看護人ノ採用ニ關シテハ收容患者カ特殊ノ疾病ナルヲ以テ採用ノ困難ナルト共ニ技術取扱等ニ缺クル所アルニヨリ看護學講習設備ノ必要ヲ認メ大正四年八月東京府へ設立ノ申請ヲナシタルモ經費其他ノ關係上許可セラレサリシカ昭和五年十二月十三日再ヒ上申シタルニ同十七日付ニテ許可セラレタルニヨリ同六年一月十五日警視廳へ申請、二月二十八日指定セラレタルヲ以テ五月二十九日第一回講習生ノ卒業式ヲ舉行シタリ

一、患者教育舍新設

患者教育舍ノ必要ヲ認ムル事多年漸ク本年七十坪二合五勺ノ校舎ヲ新築シタルヲ以テ十一月十三日落成式ヲ兼テ學藝品展覽會ヲ開催セリ、集マル所一道二府十二縣、臺灣、南滿洲、加奈陀等ニシテ千三百點ニ及ヘリ

一、同年増築シタル建物左ノ如シ

輕症舍	三棟 一三二坪四八	教育舍	一棟 七〇坪二五
同物置	三棟 六坪	寢具及被服物置	一棟 二〇坪
重症舍	一棟 六〇坪	患者食品配給所	(増築) 二三坪
同 附屬渡り廊下	三坪	消防用器具置場及患者控所	一棟 六坪
精神病舍	一棟 六〇坪	禮拜堂用便所	一棟 二坪
患者食品配給所以下ハ患者ノ手ニヨリ建築シタルモノ			
道路敷石	四三〇坪(六、四五〇枚)		

昭和七年

一、昨六年十一月財團法人痲豫防協會ヨリ患者相談所二棟ノ建築方ヲ依頼シ來リシヲ以テ東京府ノ許可ヲ得テ患者作業ニ依リ工事ニ著手シ五月下旬竣工七月一日ヨリ開所シ年末ニハ九名ノ患者ヲ收容セリ尙ホ同協會ヨリ四棟ノ増築方ヲ申シ來リシヲ以テ直ニ工事ニ著手セリ

一、藤蔭靜枝嬢寄附ノ輕症舍一棟(十八坪五合)ハ財團法人全生互惠會ニヨリ工事中ノ處十一月竣工シタルヲ以テ藤蔭寮ト命名シ男年少者ヲ收容セリ

一、明治四十二年建設シタル輕症舎十棟ハ腐朽甚クシク到底患者ノ收容不可能ナルヲ以テ本年度内ニ五棟ノ改築ニ著手シタル所三棟(百三十二坪五合一勺)ノ工事終了セシヲ以テ患者ヲ收容セリ

一、本年中増築シタル建物ハ(前記ヲ除ク)左ノ如シ

電氣室	一棟 七坪五	外來患者診療所兼待合所	一棟 六坪
看護婦浴室及脱衣室	一棟 二九坪二五	配食器消毒所	一棟 七坪五
精米精麥患者作業所	一棟 一八坪五	同 渡り廊下	〇坪七五

昭和八年

一、運動場開キ 四月十三日豫テ院内北隅ニ工事中ノ運動場竣工ニ付「グラウンド」開キヲ舉行セリ

一、全生相談所輕症舎竣工 昨年建築ニ著手セシ癩豫防協會相談所輕症舎四棟ハ全部竣工セリ而シテ昨年竣工ノ分ト合スレハ六棟一〇三・四四坪トナリ年末現在ノ收容患者數二十人、内男十四人女六人トナレリ

一、御歌記念碑除幕式 畏クモ 皇太后陛下ニハ昭和七年「癩患者を慰めて」トノ御兼題ヲ仰出サレ

つれづれの友となりても慰めよ
行くことかたきわれにかはりて
ト御詠シ遊ハサレタリ

本院ニ於テハ其ノ御歌ヲ永ク記念センカ爲寄附金ヲ以テ御歌ヲ刻ミタル御坤徳記念碑建設ヲ企テ十一月十日ソノ竣工ヲ見タルニ依リ入江皇太后宮太夫閣下、鹿兒島宮内省總務課長閣下、大島内務省衛生局長閣下、香坂東京府知事閣下、清閑寺皇太后宮事務官殿始メ其他多數名士御臨場ノ許ニ盛大ナル除幕式ヲ舉行セリ

一、輕症舎改増築 明治四十二年ノ建築ニ係ル輕症舎ハ腐朽甚クシク使用困難トナリシヲ以テ昨年度ニ於テ五棟ノ改増ヲ爲セシカ本年ハ残り四棟ト夫婦舎トヲ改築セリ、夫婦舎ハ從來一棟ナリシヲ二棟ト爲シ、其他重症舎一棟ノ増築並ニ看護婦寄宿舍一棟ノ新築ニ著手セリ

一、竣工セシ建物ハ左ノ通り

輕症舎	二棟 (改築)	八八坪三四	同 (夫婦舎)	二棟 (改築)	七〇坪三七
-----	---------	-------	---------	---------	-------

昭和九年

一、永代神社大祭 豫テ慰安會ニ於テ建設中ナリシ永代神社竣工シタルヲ以テ伊勢皇大神宮、豊受大神宮、明治神宮ノ御三柱ノ御神靈ヲ奉戴シ五月二十二日夜九時ヨリ全職員參列古式ニ則リ遷宮式ヲ舉行シ翌二十三日午後二時半ヨリ大祭ヲ執行セリ

一、楓苗木御下賜 五月二十六日 皇太后陛下ヨリ楓苗木百五十本御下賜ノ御沙汰アリ院長大宮御所ニ伺候拜受シ職員患者一同ニ傳達ノ上院内ニ移植セリ

一、第三區外島保養院患者委託 九月二十一日中國近畿地方ヲ襲ヘル大暴風雨ノ爲メ外島保養院ハ不幸ニモ津浪ノ襲來ヲ受ケ改築殆ント成リテ十一月移轉スルノ豫定ナリシ主要建物及舊建物全部潰滅ニ歸シタルヲ以テ生存患者ヲ全國各療養所ニ委託スルコト、ナリ、本院ハ九月二十七日五拾名、十月九日二拾名合計七拾名ノ患者ヲ受託收容セリ

一、第一號館其他ノ改増築

明治四十四年ノ建築ニカ、ル事務所ハ狹隘且ツ腐朽セシ處本年度ニ於テ新築工成リ從來ノ面目ハ一新セラレタリ更ニ昨年ヨリ引續キ改増築中ナリシ看護婦寄宿舍一棟増築、輕症舎三棟改築ニハ全部竣工セリ

一、寄附ヲ受ケタル建物

一、神社 本院患者慰安會事業トシテ患者ノ手ニヨリ建築中ナリシ神社一棟一坪(家根銅板神明造リ)ハ五月ヲ以テ全部落成セシヲ以テ同會ハ之ヲ本院ニ寄附シタリ

一、輕症舎 東京市本郷區駒込東片町宇都野研氏ヨリノ指定寄附ニ依リ院内附屬人全生互惠會ニ於テ建築中ナリシ輕症舎

一棟二十二坪二合五勺ハ七月ヲ以テ竣工セシニ依リ其ノ一切ト共ニ同月二十五日之ヲ本院ニ引繼カレタリ

一、本年中ニ竣工シタル建物左ノ通り

一、輕症舎 二棟(改) 八八坪三四 一、本館事務所 一棟(新二階建) 一二六坪九

一、同 一棟(新) 四四坪 一、附屬便所 一棟(新) 三坪七五

一、看護婦寄宿舍 一棟(新) 二八坪 一、附屬渡り廊下 三棟 三七坪六

昭和十年

一、皇室ノ御仁慈

一月十八日 皇太后陛下ノ御思召ニ依リ院長ハ全國各官公立癩療養所長ト共ニ大宮御所ヘ伺候 陛下ニ單獨拜謁仰付ラレ午餐ヲ賜ハル、而シテ其際拜受セル鶏卵ヲ本院ニ於テ孵化シタルニ雌一、雄二羽ノ雛孵リタルヲ以テ院内ニ「光の鶏舎」ヲ築キテ飼育セシニ年末ニ至リ十八羽ノ雛ヲ増加セリ

二月十一日 皇太后陛下ノ重ネ重ネノ有難キ御沙汰ヲ拜シ院長ハ大宮御所ニ伺候院内施設ノ改善擴張費トシテ陛下賜金ヲ拜受シタリ

一、永代神社大島居ノ建設

本院永代神社大島居(花崗岩)ハ特志家並ニ職員患者ノ寄附金ヲ以テ建設スルコト、ナリ五月十五日東村山水川神社武内社掌ヲ聘シ地鎮祭ヲ執行シ同月二十一日御手洗(花崗岩)ト共ニ工事落成セリ

一、納骨堂除幕式

本院多年ノ宿願タリシ患者ノ遺骨ヲ收藏スヘキ納骨堂ノ建設ハ昨年京都大谷派本願寺、同内侍局、東京築地本願寺、曹洞宗務院、日蓮宗宗務院、眞言宗豊山派宗務院、同智山派宗務院、淨土宗宗務院、淺草淺草寺等ノ各宗門並ニ特志家ノ援助ヲ受ケ更ニ本院職員、患者ノ寄附金ヲ合セテ財源トシ九年八月エヲ起シテ以來約一箇年ノ歳月ト二千二百餘圓ノ工費、延人員三千四百四十二人ノ患者ノ作業トヲ以テ漸ク竣工セシニ依リ六月十九日京都東本願寺御連枝信正院殿親下、同淺草別院沼波輪番、西本願寺東京築地別院岡部輪番、曹洞宗教學部長來馬琢道師外多數高僧臨場、本院囑託和光堅正師司式ノ許ニ莊嚴ナル佛式ヲ以テ除幕式ヲ舉行、微妙ナル奏樂裡ニ院長、主事堂前ニ進ミ除幕ヲ行ハ東本願寺法主親下御染筆ノ「俱會一處」ノ金文字燦然トシテ輝キ一同暫時默禱ヲ捧ケリ、之ヨリ信正院殿親下大導師トシテ法要ヲ嚴修セラレ院長ノ謝辭、主事ノ工事報告ヲ終リ内務省衛生局長、東京府知事、曹洞宗來馬教學部長其他來賓ノ祝辭アリ最後ニ信正院殿親下代理沼波信正ノ一場ノ挨拶アリテ此ノ歴史の式典ヲ終了セリ

本年中ニ於ケル竣工建物

一、納骨堂 一棟 四坪 慰安會ニ於テ建設ノ上本院ニ寄附シタリ

一、三井重輕症舎 昨年十月財團三井報恩會ノ依頼ヲ受ケ本院内財團全生互惠會ニテ建設中ノ左記病舎全部竣工セリ

重症舎 一棟 六〇坪 輕症舎 三棟 (一棟四五坪) 一三五坪
 事務分室 一棟 二階建(新) 三三坪二五 書記、調劑員舎宅 二棟 平屋建(新) 三二坪
 醫員舎宅 一棟 平屋建(新) 二〇坪 輕症舎 二棟 平屋建(新) 八八坪三四
 一、其他 昭和十年度豫算ヲ以テ建築セラルヘキ炊事場、圖書室兼集會所、診療室ノ改増築ノ外貯水池ハ目下工事中ナリ

昭和十一年

一、舊帝室博物館建物下附

二月三日 院長、主事宮内省へ出向東京府輕部衛生課長立會ノ上、上野舊帝室博物館事務所外四百五拾餘坪ノ下附書ヲ拜受シ二月十日諸般ノ準備ヲ整ヘ其ノ取壊シニ著手シ三月十五日ヲ以テ全部之カ運搬ヲ完了セリ
 一月二十四日 入江皇太后宮太夫閣下ヲ通シ益田孝氏外八氏ヨリ金壹萬貳千圓也ノ移築費指定寄附金ヲ以テ本用材ヲ使用シ本院ニ於テ急施ヲ要ス可キ患者注射所外七棟ノ建築計畫ヲ樹テ三月十九日ヨリ全生會館、患者注射所、患者理髮所ノ建築ニ著手セリ

一、永代神社石燈籠ノ建設

本院永代神社石燈籠壹對ハ職員並ニ患者ノ寄附ヲ以テ建設シ五月二十二日竣工セリ

一、北部保養院火災

十月二十二日 此ノ日北部保養院火災全滅ノ電報ニ接シタルヲ以テ直ニ内務省ニ照會シ緊急職員會ヲ開キ即時救護班ヲ組織シ應急處置ニ要スル醫療材料並ニ藥品等ヲ携帶現地ニ急行セシムル一方職員ヲシテ罹災患者ニ送ルヘキ寢具被服百人分ノ荷造ヲナサシメ即日東京秋葉原驛發ニテ輸送シタリ

一、全生圖書館開館式

昨年末ヨリ患者ノ手ニ依リ建築中ノ全生圖書館ハ四月工事竣工シタルモ尙内部ノ設備其他ニ日時ヲ要セシヲ以テ十一月舊圖書館ヲ此處ニ移轉シ十二月十五日開館式ヲ舉行シ併セテ本院學園兒童學藝品展覽會ヲ開催シタルニ近隣町村小學校ヨリ七百餘點ノ出品アリ頗ル盛會ナリキ來賓トシテ中山田無警察署長、榎本木村長、小池木村小學校長他近隣小學校長並ニ教職員等多數臨席セラレタリ

一、一時救護所ノ開設

財團三井報恩會ヨリ寄附ノ重輕症舎(初度調辦設備ヲ含ム)ヲ一時救護所ニ充ツルコト、爲シ聯合府縣並ニ警視廳ト協議シ七月之カ開設ヲ見タリ

一、本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

炊事場	(新) 一棟 六六坪五	看護婦寄宿舎	(増) 一棟 一五坪
治療室	(増) 一棟 二二坪	貯水池	(増) 一箇所 三三〇石
醫局洗濯所	(新) 一棟 一六坪	事務所小使室附屬物置	(新) 一棟 八坪
渡廊下	(同) 一〇坪	全生圖書館	(同) 一棟 四五坪五
職員手洗及消毒所	(同) 一坪八	重症舎附屬浴場(九號)	(増) 一棟 二坪二五
昇降口	(同) 一棟 〇坪九	同 渡廊下	一坪
ロ、寄附建物			

一、本院内財團全生互惠會ニ於テ建築セル財團三井報恩會ノ建物左記四棟ハ全部本院ニ寄附セラレ八月十二日之カ引繼ヲ

受ケタリ

重症 舍
輕症 舍

一棟 六〇坪
三棟 一三五坪

初度調辨設備一式 (百人分) 四、〇〇〇圓

一、三井物産株式會社員久山寅一郎氏外三〇三名ノ寄附ヲ以テ本院慰安會ニ於テ建築セル左記建物本院ニ寄附セラレ八月三十一日之カ引繼ヲ受ケタリ

輕症 舍 一棟 木造瓦葺平家建 一一坪五

昭和十二年

一、恩賜病棟落成式

皇太后陛下ノ御下賜金ヲ拜受シ御思召ヲ以テ重症病棟一棟ヲ建築スルコト、爲シ、七月二十八日嚴カニ地鎮祭ヲ執行シ爾來御仁慈ニ感激セル患者ノ手ニ依リ工事ヲ進メ竣工シタルヲ以テ十一月十日神官ヲ聘シ落成式ヲ舉行、此ノ日藤間皇太后宮屬、高野内務省豫防課長、多湖東京府學務部長、岡府立清瀬病院長、武崎府立靜和園長、小池木村化成小學校長、警視廳田無警察署員、私立慰慶園主和田秀豊氏等多數來賓ノ貴臨ヲ恭フシ祝辭、祝電ヲ賜ハリタリ

一、永代神社玉垣建設

本院職員、患者ノ寄附金五百八拾餘圓及豫テ宮内省御下附ノ舊帝室博物館礎石ヲ以テ工事中ノ永代神社玉垣ハ「御惠の日」即チ十一月十日ヲ以テ竣工シタリ

一、全生劇場建設披露

昭和十一年度豫算ヲ以テ建築セル劇場ハ其ノ年度末ニ於テ竣工シタルニ依リ三月二十九日職員有志主催ノ患者慰安演劇

大會ヲ催シ續イテ四月六日東京中村歌扇、阪東市太郎丈合同大一座ノ歌舞伎演劇ヲ開催シテ劇場ノ新築披露ヲナセリ

一、本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物
恩賜病棟 一棟 五七坪五 藥局 一棟 七〇坪五
全生劇場 一棟 一六〇坪 同 附屬地下室 一箇所 五坪

ロ、寄附建物

三井物産株式會社員中丸一平氏、東京府北多摩郡武藏野町武藏野學園長佐藤藤太郎氏ノ指定寄附金ヲ以テ、本院慰安會ニ依リ建築セル左記建物ハ一月二十八日同會ヨリ本院之カ引繼ヲ了シタリ

輕症 舍 一棟 木造瓦葺平屋建 一五坪五

一、敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ經テ三月現在敷地ノ東北方ニ接續セル南秋津中原山林九千四百拾八坪ヲ買收シタリ

昭和十三年

一、恩賜楓ノ國記念碑竣工

皇太后陛下御下賜ノ楓苗木丈餘ニ成育シタルヲ以テ院内閑靜ノ地ニ移植「恩賜楓の園」ヲ造營シ此處ニ記念碑ヲ建設中ノ處一月十二日竣工セリ

一、大宮御所伺候

十一月二十八日御召ニ依リ院長大宮御所ニ伺候

皇太后陛下ニ拜謁仰付ラレ院內狀況ヲ具ニ言上院內諸施設諸行事撮影ノ寫眞帖ヲ奉獻セリ而シテ翌二十九日院長ハ職員並ニ患者ヲ召集シ禮拜堂ニ於テ大宮御所ニ伺候セル御模様ヲ述ヘ謹ミテ 陛下ノ御仁慈ノ程ヲ傳達セリ

一、光明園委託患者歸園

昭和九年九月二十一日風水ノ襲來ヲ受ケ壞滅ノ悲運ニ遭ヒタル第三區府縣立療養所外島保養院ハ其ノ位置ヲ岡山縣長島ニ定メ再建工事中ノ處此程竣工シ光明園ト命名シ全國各療養所ノ委託患者ヲ歸園セシメツ、アリシカ本院ノ委託患者五十一名(最初委託七〇名)ハ七月五日光明園醫員吉田重春引率ノ下ニ歸園セリ

一、請願巡查設置廢止

大正二年四月ヨリ設置セル請願巡查派出所ハ今事變ニ際シ多數警察官ノ應召アリ警視廳ノ都合ヲ以テ十月三十一日限り一時之ヲ廢止セラル

一、敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ得テ現在敷地西北方ニ隣接セル南秋津上原山林一萬七坪ヲ買收シタリ

昭和十四年

一、創立三十周年記念式

十一月十日「御恵の日」ヲトシ本院創立三十周年記念式ヲ舉行東京府知事代理草間衛生課長、厚生省床次優生課長、千葉縣知事代理榎技師、厚生省石橋技師、同多田屬、東京府瀧口屬、同小田屬、同小島營繕技師、同清水技師、警視總監

代理白石豫防係長、長島愛生園山田書記、栗生樂泉園玉村醫官、府立清瀬病院岡院長、三井報恩會理事長代理横田主事、日本M.T.L理事長代理小林理事、ベテレヘムの園フロジヤツク園主、眞宗和光布教師、眞言宗中山布教師、好善社藤原布教師、田無警察署高橋署長、所澤警察署長代理神山警部補、府立農事試驗場長代理松岡技手、松澤病院廣田書記、石渡こと(元全生病院看護婦長)、東村山、久留米、片山、松井各村長、東村山助役、化成小學校長、東村山警防團長、同副團長、東村山郵便局長、東村山驛長、其他村會議員、新聞記者等多數列席セラル
次イテ永年勤続職員看護長後澤長四郎外三十名ノ表彰、並ニ善行患者平松秀男以下五十名ノ表彰アリ、午餐ノ後娛樂場ニ於テ學園兒童學藝品ノ展覽、患者演劇、音楽、舞踊等ノ餘興アリ盛會裡ニ終了シタリ
一、本年中ニ竣工若クハ引繼ヲ受ケタル建物左ノ如シ

(イ) 竣工セシ建物

- 一、醫員舎宅 木造平家建日本瓦葺 一棟 二〇坪
- 一、看護人合宿舎 木造二階建ヤマトスレート葺 一棟 八四坪

(ロ) 引繼ヲ受ケタル建物

- 一、恩賜重症病棟 木造平家建スレート葺 一棟 五七坪五
- 一、女 醫 寮 木造平家建亞鉛板葺 一棟 一〇坪一
- 一、全生會館 木造洋館建瓦葺 一棟 五〇坪五
- 一、輕 症 舎 木造平家建スレート葺 一棟 四五坪
- 一、注 射 場 同 右 一棟 二八坪
- 一、理 髮 場 同 右 一棟 二五坪

- 一、光の鶏舎 木造平家建瓦葺 一棟 七坪五
 - 一、園藝部詰所 木造平家建亞鉛板葺 一棟 一〇坪二五
 - 一、禮拜堂附屬物置 同 右瓦葺 一棟 一五坪
 - 一、漬物倉庫並野菜置場 木造平家建瓦葺並亞鉛板葺 一棟 四六坪五
- 備考 恩賜病棟ハ、皇太后陛下御下賜金ヲ以テ建築、女醫寮ハ日本女醫會ノ寄附金ヲ以テ建築、全生會館以下
八棟ハ宮内省ヨリ御下附ノ上野舊帝室博物館事務所ヲ移築シタルモノナリ

昭和十五年

- 一、御仁慈
 - 五月十一日院長御召ニ依リ大宮御所ニ伺候
 - 皇太后陛下ヨリ公孫樹苗木壹鉢ヲ拜受同十四日思召ヲ職員、患者ニ傳達苗木ヲ御歌碑庭前ニ謹植セリ
 - 十一月十二日院長御召ニ依リ大宮御所ニ伺候
 - 皇太后陛下ヨリ御下賜金五千圓ヲ拜受セリ
 - 一、紀元二千六百年記念事業ノ一トシテ恩賜楓の園ヲ中心トシタル一大記念公園ノ建設ヲ計畫八月一日之カ地鎮祭ヲ執行
同日ヨリ職員、患者合同奉仕作業ヲ續行第一期工事ヲ終了セリ
 - 一、竣工或ハ改増築シタル建物
 - イ、竣工セシ建物
 - 一、院長舎宅 木造瓦葺平家建 一棟 四八坪

- 一、主事舎宅 同 一棟 三三坪
- 一、醫局長舎宅 同 一棟 三三坪
- ロ、改増築セシ建物
 - 一、醫員舎宅(改築) 木造瓦葺平家建 一棟 二五坪二五
 - 一、外來者面會所(同) 木造洋館建 一棟 六坪 齋藤長八郎氏寄贈
 - 一、禮拜堂玄關(増築) 木造瓦葺平家建 一棟 四坪五 野村長一氏寄贈

收容定員増員狀況

年 度 別	收容定員	年 度 別	收容定員
明治四二年度	三〇〇人	昭和三年度	九〇〇人
大正元年度	三五〇人	昭和六年度	一、〇〇〇人
大正四年度	四〇〇人	昭和一〇年度	一、一〇〇人
大正七年度	五〇〇人	昭和一二年度	一、二〇〇人
大正一一年度	六〇〇人	現 在	同
大正一三年度	七五〇人		

職員異動表

任命年月日	摘 要	退職年月日	職 名	氏 名
明治四二年四月一日		明治四三年三月二日	院長事務取扱	大野德太郎

同	四月一日	明治四三年九月勅令第百六號	書	記	佐々木哲助
同	四月一日	發布ニ依リ九月三日限廢職	同	今道	小十郎
同	四月六日	明治四三年六月一四日轉職	醫員兼藥劑師	齋藤	利一
同	四月八日	明治四三年九月勅令第百六號	書	記	清水富二
同	四月二四日	發布ニ依リ九月三日限廢職	同	石井	綱條
同	九月七日	同	機關	手	野辰三
同	九月一〇日	同	醫	長	光田健輔
同	九月二日	同	醫	員	陳鷺郎
同	九月三日	同	藥劑師	內海	廣業
同	二月二五日	同	醫	員	村田茂助
同	二月二日	同	書	記	工藤理助
同	三月一日	同	院	長	池內才次郎
同	六月二四日	同	醫	員	川上左右須計
同	六月二四日	同	藥劑師兼醫員	齋藤	利一
同	一〇月一日	明治四三年九月勅令第百六號	療養所長	院長	池內才次郎
同	一〇月一日	ニ依リ更ニ任命	醫	長	光田健輔
同	一〇月一日	同(大正三年二月九日轉職)	醫	員	陳鷺郎
同	一〇月一日	同(大正六年七月九日死亡)	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同(明治四年九月四日死亡)	同	同	同
同	一〇月一日	同(明治四年一月一五日休職)	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月二二日	同	同	同	同
同	九月二二日	大正二年五月一日轉職	調劑員兼醫員	高橋	幸之助
同	一一月二五日	同	書	記	吉野熊次郎
大正二年	五月一日	同	書記兼醫員	高橋	幸之助
同	六月二七日	大正七年一〇月九日休職	同	同	同
同	七月一六日	同八年五月二三日復職	書	記	安藤三太郎
同	一一月四日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	石川又藏
大正三年	二月一九日	長島愛生園長ニ轉セラル	院長兼療養所長	長	光田健輔
同	五月一三日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	林芳信
同	五月一八日	同	同	同	同
同	六月二九日	大正一五年六月八日轉職	同	同	同

同	一〇月一日	同	同	同	川上左右須計
同	一〇月一日	同	調劑員	內海	廣業
同	一〇月一日	同(明治四年九月四日死亡)	調劑員兼醫員	齋藤	利一
同	一〇月一日	同(明治四年一月一五日休職)	書	記	佐々木哲助
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月二二日	同	同	同	同
同	九月二二日	大正二年五月一日轉職	調劑員兼醫員	高橋	幸之助
同	一一月二五日	同	書	記	吉野熊次郎
大正二年	五月一日	同	書記兼醫員	高橋	幸之助
同	六月二七日	大正七年一〇月九日休職	同	同	同
同	七月一六日	同八年五月二三日復職	書	記	安藤三太郎
同	一一月四日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	石川又藏
大正三年	二月一九日	長島愛生園長ニ轉セラル	院長兼療養所長	長	光田健輔
同	五月一三日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	林芳信
同	五月一八日	同	同	同	同
同	六月二九日	大正一五年六月八日轉職	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月一日	同	同	同	同
同	一〇月二二日	同	同	同	同
同	九月二二日	大正二年五月一日轉職	調劑員兼醫員	高橋	幸之助
同	一一月二五日	同	書	記	吉野熊次郎
大正二年	五月一日	同	書記兼醫員	高橋	幸之助
同	六月二七日	大正七年一〇月九日休職	同	同	同
同	七月一六日	同八年五月二三日復職	書	記	安藤三太郎
同	一一月四日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	石川又藏
大正三年	二月一九日	長島愛生園長ニ轉セラル	院長兼療養所長	長	光田健輔
同	五月一三日	大正九年四月一九日轉職	醫	員	林芳信
同	五月一八日	同	同	同	同
同	六月二九日	大正一五年六月八日轉職	同	同	同

同	五年一月二四日		同	六年二月五日	療養所醫員	渡邊源次郎
同	一月二四日		同	七年六月三〇日	同	西原ツボミ
同	六月二五日	長島愛生園醫官ニ轉セラル	同	六年五月五日	院長事務取扱	員大西富美子
同	六年三月一六日	東京府衛生課長	同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	五月五日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	七年一月二五日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	一月二八日	昭和七年九月九日 石川縣へ出向ヲ命セラル	同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	四月一四日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	一月一八日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	七年一月一〇日	昭和一三年五月一八日轉職	同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	八年六月一〇日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	六月一〇日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	八月三一日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	九年五月一八日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	一〇年四月一九日	昭和一一年五月五日轉職	同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	五月三一日	昭和一六年一〇月六日死亡	同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	一月二五日		同	同	院長事務取扱	部長林芳信
同	一二年二月二日	昭和一二年三月一日死亡	同	同	院長事務取扱	部長林芳信

同	四月三〇日		同	一三年二月九日	調劑員	宮崎米雄
同	五月五日	(醫員ヨリ)	同	同	療養所醫員	淺野滋
同	五月六日		同	同	療養所醫員	池尻慎一
同	八月二〇日		同	同	療養所醫員	日居善一
同	九月二五日		同	同	療養所醫員	坂崎たか
同	一二年四月三〇日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	四月三〇日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	一三年四月三〇日	昭和一五年六月二七日 京都府へ出向ヲ命セラル	同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	五月一八日	(醫員ヨリ)	同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	七月二六日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	一二月一五日	昭和一五年二月二二日 栃木縣へ出向ヲ命セラル	同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	一四年六月三〇日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	一五年三月一九日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	六月一五日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	八月二五日		同	同	療養所醫員	長谷川久次
同	八月二五日		同	同	療養所醫員	長谷川久次

第二 概 況

一、敷 地 一二四、五五八坪四二三

內

園 敷 地 一二四、二〇八坪八六〇
患者一時溜所敷地 四九坪五六三

二、建物坪數 一九七棟 六、〇九〇坪一〇〇

內

事務所建	八八棟	三八七二坪五〇	看護人控室並浴場	一棟	五一坪七五
事務所本館(二階建)	一棟	二二六坪九	藥局(一部地下室)	一棟	八〇坪五
應 接 所	一棟	二二坪	第一試驗室	一棟	一八坪
醫 務 室(材料室)	一棟	三〇坪	第二試驗室	一棟	二四坪
職員昇降口(玄關、手洗所ヲ含ム)	一棟	九坪	診 察 室	一棟	四二坪
治 療 室	一棟	七五坪	手 術 室	一棟	一三坪
處 方 室	一棟	九坪	靈安室(解剖室)	一棟	二二坪
醫局圖書室	一棟	二四坪	一、二號病棟	一棟	一一五坪

三、四號病棟	一棟	一二九坪五	第二隔離室	一棟	三五坪五
五號病棟	一棟	七〇坪	第一隔離室	一棟	六〇坪
六號病棟	一棟	四二坪	全生常會事務所	一棟	二〇坪五〇
七號病棟	一棟	三八坪	教 育 舍	一棟	七〇坪二五
八號病棟	一棟	四〇坪	圖 書 館	一棟	四五坪五
九號病棟	一棟	六〇坪	相 談 所	一棟	六坪
十號病棟	一棟	六〇坪	住 宅 建	八一九坪二五	
輕症病棟	六棟	一〇四坪	院長舍宅	一棟	四八坪
三井重症病棟	一棟	六〇坪	主事舍宅	一棟	三三坪
恩賜重症病棟	一棟	五七坪五	醫局長舍宅	一棟	三三坪
交 付 所	一棟	五九坪二五	醫員舍宅	六棟	一三七坪二五
患者作業場及繙帶交換所	一棟	一三五坪	醫員調劑員舍宅	一棟	六八坪
注 射 場	一棟	二八坪	調劑員舍宅	二棟	三三坪
事務分館(二階建)	一棟	三八坪二五	看護長舍宅	一棟	一六坪五
外來面會所	一棟	一四坪二五	書記舍宅	三棟	一四坪
娛 樂 室	一棟	一六〇坪	機關手雇員舍宅	一棟	六〇坪
輕症病棟	四五棟	一、八五七坪全	看護人舍宅	二棟	五九坪五
第三隔離室	一棟	一八坪	雇員調劑助手舍宅	一棟	三〇坪

看護婦寄宿舎八洲寮	一棟	四二坪五	物置(事務本館)	一棟	八坪
同 瑞穂寮	一棟	三二坪五	門衛所	一棟	一三坪七五
同 扶桑寮	一棟	二八坪	消毒所(外來用)	一棟	七坪
看護人合宿舎(二階建)	一棟	八四坪	浴室及更衣室	一棟	二二坪
工場建	一棟	二四坪	渡廊下(醫局)	六棟	二〇坪
精米精麥場	一棟	二四坪	醫局洗濯所	一棟	一六坪
倉庫建	一三棟	二五四坪二五	渡廊下(病室)	七棟	五二坪五
自動車庫	一棟	一八坪	便所(病室)	二棟	七坪
事務倉庫	三棟	八九坪七五	動物小屋及標本置場	一棟	一二坪
炊事倉庫	四棟	五二坪五	動物飼育舎	一棟	一四坪
漬物倉庫	一棟	四二坪	監禁及謹慎室	一棟	一七坪
寢具倉庫	一棟	一〇坪	監視所	一棟	〇坪五
倉庫	二棟	三六坪	ガスタンク置場	一棟	三坪
神社倉庫	一棟	六坪	患者浴場(藥湯)	一棟	二坪五
雜屋建	七八棟	一一二坪一	男子患者浴場	一棟	四一坪二五
便所(事務本館)	二棟	五坪七五	女子患者浴場	一棟	三五坪
渡廊下(事務本館)	五棟	三〇坪二五	消防器具置場	一棟	八坪
便所(相談所)	一棟	一坪六	患者食品配給所	一棟	三五坪

三六

配食器消毒所	一棟	八坪二五	蒸氣消毒及乾燥場(二階建)	一棟	一四四坪
理髮場	一棟	二五坪	汽罐室	一棟	六五坪五
全生會館	一棟	四九坪七五	火夫宿直室	一棟	六坪
神社	一棟	一坪	光の鶏舎	一棟	七坪五
火葬場	一棟	一二坪	物置(汽罐場)	一棟	一二坪
肥料小屋	一棟	四〇坪	電氣ポンプ室	一棟	八坪
納骨堂	一棟	四坪	蒸氣ポンプ室	一棟	六坪
物置(輕症病棟)	九棟	一八坪	電氣室	一棟	七坪五
便所(院内)	五棟	七坪五	物置(木炭)	一棟	一八坪
園藝部詰所	一棟	一一坪二五	炊事場	一棟	七二坪五
禮拜堂	一棟	一三二坪五	患者炊事場	一棟	二〇坪
禮拜堂附屬物置	一棟	一五坪	便所(炊事場)	一棟	一坪
患者洗濯場	一棟	三一坪五	食堂	一棟	二二坪二五
普通乾燥場	一棟	一〇坪	舍宅共同浴場	一棟	一五坪

三、職員 (年末現在)

(イ) 官制ニ依ル職員

園長 林芳信、事務官 庶務課長 石橋伊八

醫官	阿部秀直	同	藤森稻藏
醫官	西原ツボミ	同	鳥居善一
同	義江義雄	同	國分正禮
同	淺野滋	同	大嶋定重
同	池尻慎一	同	本莊平治
同	八木英忠	同	三上太一郎
醫官補	淺野實	同	日影西雄
書記	望月隆三	看護婦長	後澤長四郎
同	永井晃道	看護婦長	四谷たけ
囑託員	三	電氣士	一
雇員	六	司厨長	一
指導員	一	守衛士	八
調劑助手	二	火夫	一
看護婦	一四	看護助手	三
看護婦	一四	洗滌士	四
機關士	一	裁縫婦	一
運轉手	二		

交換手使 六 掃除夫 三

四、收容患者定員及現在數

定員 一、二〇〇人
 年末現在數 一、三〇九人(男) 八八六人(女) 四二三人

五、特ニ本年中ニ於ケル重要事項

- 二月十一日 宮内省ヨリ社會事業獎勵ノ思召ヲ以テ金參百圓也下賜東京府ヨリ同趣旨ヲ以テ金壹百圓下付セラル。
- 二月二十五日 國立移管ニ關シ第一區聯合府縣協議會ヲ東京府廳ニ開催本院ヨリ林院長、石橋主事、望月書記出席セリ。
- 三月四、五日 全國官公立療養所長會議ヲ厚生省ニ開催本院ヨリ林院長、石橋主事、阿部醫員出席セリ。
- 三月六日 長島愛生園光田園長一行ヲ同伴來院市川團治氏ノ演藝寄贈セラル。
- 三月十四日 朝香宮鳩彦王殿下傷痍軍人御慰問ノ思召ヲ以テ御成り遊ハサル。
- 主ナル來院者ハ軍人援護會々長奈良武次大將、軍事保護院三島副總裁、濱野醫療課長、若尾理事官、厚生省高野豫防局長、床次優生課長、東京府小菅總務部長、東京府草間衛生課長其他ノ諸氏ナリ。
- 三月十九日 松丘保養園長中條資俊氏來園視察セラル。
- 四月二十八日 本院看護婦養成所ニ於ケル第九回看護婦講習生ノ入所式ヲ舉行ス。

- 五月十日 本院囑託小野布教師案内ニテ貴族院議員井上清純氏來院講演セラレ。
- 五月十二、十三日 本院職員全員ニ對シ例年ノ通健康診斷ヲ施行ス。
- 五月十六日 定例春季慰靈祭ヲ執行東本願寺輪番代理藤山治定氏、小野囑託布教師外三名臨場開院以來死亡患者一、九三名ニ對スル法要ヲ嚴修シ藤山僧正ノ法話アリ。
- 五月二十三日 東村山村水川神社武内社掌ニヨリ永代神社例祭ヲ執行主ナル來賓ハ東村山村長代理助役久野儀三郎、同役場吏員小山宗一、化成國民學校長代理訓導下田佐十、村會議員並氏子惣代武藤喜平、田無警察署長代理田町巡查部長其他諸氏ナリ。
- 六月九日 日蓮宗々務院教學部長湯川日淳僧正、貌衾存明師、加藤瑞光師外三名富澤鍊性師案内ニテ大施餓鬼法要ヲ執行シ續イテ湯川僧正ノ法話アリ。
- 六月二十日 弘法大師誕生青葉祭ヲ執行セルニ高野山東京別院ヨリ前田有和僧正、蓮真猛僧正、外高僧五名東京金剛講員宮本弘鷹氏外七名中山大忍囑託布教師案内ニテ臨場法要ヲ嚴修シ前田僧正ノ法話アリ、同夜眞言宗寄贈ノ映畫會ヲ催シタリ。
- 六月二十五日 皇太后陛下御誕辰奉祝式ヲ舉行シ引續キ癩豫防協會理事原泰一氏ノ講演アリ。
- 七月一日 本院ハ國立ニ移管厚生省所管トナリ名稱ヲ國立癩療養所多磨全生園ト改稱セラレ同日付ヲ以テ園長、事務官、外醫官五名、判任官十名發令セラレ。
- 七月二日 國立移管式ヲ舉行ス、主ナル來賓ハ大谷皇太后宮太夫、金光厚生大臣、高野豫防局長、床次優生課長、管理知事代理東京府並川經濟部長、東京府草間衛生課長、警視廳加藤醫務課長、神奈川縣北條衛生課長、埼玉縣土田衛生課長、群馬縣松野衛生課長、千葉縣平松衛生課長、栃木縣加藤衛生課長、愛知縣玉木衛生課長、山梨縣渡邊警察部長、

白井神奈川縣會副議長、古見栗生樂泉園長、同霜崎事務官、東北新生園古溝事務官、和田慰慶園長、千葉復生病院長、恩賜財團三井報恩會山口常務理事、恩賜財團濟生會小川庶務部長、岡府立清瀬病院長、武崎府立靜和園長、八田田無警察署長、柴所澤警察署長、嶋田東村山村長其他多數ナリ。

七月七日 園職員、患者全員禮拜堂ニ參集シ支那事變四周年記念式ヲ舉行ス。

七月九日 神奈川縣參事會員三浦寅之助氏外八名來園視察セラレ。

七月十五、十六日 全國國立癩療養所長會議厚生省ニ開催セラレ園長、石橋庶務課長、阿部醫務課長、望月係長出席ス。

七月十六日 各療養所長大宮御所ニ伺候畏クモ 皇太后陛下特別ノ恩召ヲ以テ各國立癩療養所ニ 陛下ノ御寫眞及御所内御栽培ノ菴羅樹苗木ヲ御下賜アラセラル、同月十七日林園長恭シク御寫眞ヲ捧持シテ歸園午後二時五十分ヨリ禮拜堂ニ於テ莊嚴裡ニ拜戴式ヲ舉行ス。

七月二十一日 大日本佛教眞理運動本部友松圓諦師同婦人部岩橋ふみ女史外十九名來園慰問ノ後友松師ノ講演アリ。

七月二十四日 開院以來死亡患者慰靈大施餓鬼ヲ北多摩郡佛教聯合會主催トナリ執行清瀬村金龍寺住職武田勝一郎外高僧十三名臨場シ盛大ニ執り行ハル。

七月三十日 園職員ニ對シ腸チブス豫防注射ヲ施行ス。

八月二十二日 厚生省豫防局青柳豫防課長、本名屬來園視察セラレ。

八月二十八日 國頭愛樂園監沼園長來園視察セラレ。

九月六日 曩ニ申請中ノ東村山局電話（東村山一〇五番）開通セリ。

九月二十六日 陸軍少將櫻井忠溫氏來園禮拜堂ニ於テ講演セラレ。

十月十五日 畏クモ 皇太后陛下御下賜金ヲ以テ園内ラヂオ放聲裝置設備中ノ處完成セラレタルニヨリ之カ落成式ヲ禮

拜堂ニ舉行ス。

十月十六日 恒例ニ依ル秋季慰靈祭ヲ執行シタルニ淺草本願寺輪番代理粟津勸縁僧正外二名、和光、中山兩囑託布教師臨場法要ヲ嚴修シ粟津僧正ノ法話アリ。

十月二十二日 國囑託小野布教師案内ニテ日蓮宗々務院社會部長星野純義僧正外五名臨場シ禮拜堂ニ於テ御會式法要ヲ執行續イテ陸軍大佐國分習也氏ノ講演アリ。

十一月七日 眞宗報恩講執行ニ際シ和光布教師案内ニテ淺草東本願寺ヨリ百々海了僧正外一名來園禮拜堂ニ於テ法會ヲ嚴修シ續イテ夜ハ映畫會ヲ催ス。

十一月十日 園職員、患者全員禮拜堂ニ參集シ「御恵の日」記念式ヲ舉行ス。

十一月二十一日 十八日ヨリ四日間ヲ會期トシ第十四回患者慰安農産物品評會ヲ開催シタルニ戰時下農村ノ勞力、肥料等不足勝ノ際ニモ不拘地元東村山村ヲ始メトシ久留米、小平、松井、清瀬、大和田、片山、所澤、保谷等十數箇町村ヨリ出品一、五二一點ノ多キニ達シ審査長府立立川農事試驗場長代理、各町村農會長並ニ世話人等多數參列褒賞授與式ヲ舉行ス。

十一月二十三日 恒例ニ依ル秋季俳句大運座會ヲ開催ホト、ギス同人柏崎夢香先生並田口秋思堂、久保白茅子、小樽輝晴諸氏職員側ヨリ石橋一甫、奥住漫歩諸氏選句ノ勞ヲ執ラレ初音會同人、芽生會同人二百餘名出席シ盛會裡ニ終了ス。

十二月二日 防火日第二日ニ際シ警防團ニ賜リタル令旨捧讀式ヲ舉行シ八田田無警察署長ノ火防講演アリ參列者八田中東村山警防團長、同嶋田團長、田町東村山派出所長、和田南秋津駐在巡查外一名、警防團員幹部八名其他ニシテ式終了後學園廣場ニ於テ園ノ警防團ハ器具ノ點檢、操練ノ檢閲ヲ受ケタリ。

十二月七日 恒例ニ依ル秋季短歌會ヲ開催森直太郎先生並職員側ヨリ阿部秀直、邑樂慎一諸氏其他武藏野短歌會員八十餘名出席盛會裡ニ終了ス。

十二月九日 十二月八日午前十一時四十分米英ニ對シ宣戰ノ大詔讀發セラレ。翌九日職員、患者禮拜堂ニ參集シ午前九時ヨリ嚴肅裡ニ大詔捧讀式ヲ舉行ス。

十二月二十四日 クリスマス祝會ニ際シ東京好善社ヨリ慰靈園主和田牧師、藤原主事其他參列シ盛會裡ニ終了ス。

一、職員異動

二月二十八日	依願免本職	醫	大須賀宏一
七月一日	任國立癩療養所醫官 補國立癩療養所長	院長	林芳信
同	任國立癩療養所事務官	主事	石橋伊八
同	任國立癩療養所醫官	醫	阿部秀直
同	同	同	西原ツボ
同	同	同	藤原博
同	同	同	淺野滋
同	同	同	池尻慎一
同	同	同	八木英忠
同	任國立癩療養所醫官補	囑託	淺野實
同	任國立癩療養所書記	書記	月野隆三

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
線越	金	二,三八九.00	一.00	二,五六九.00	二,六六二.00	一.00
	附金	一.00	一.00	一.00	一.00	一.00
合計	計	二,三九〇.00	二.00	二,五六〇.00	二,六六三.00	二.00
歳入	總計	三二,九七七.00	三五四,五〇〇.00	三四八,八八八.00	三五八,四五五.00	三七五,九〇五.00

歳出經常部

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
俸給	給	三七,三三〇.00	三七,三三〇.00	三七,三三〇.00	三九,二七〇.00	三九,九八〇.00
	給	二,三三〇.00	六五,〇七六.00	六七,六七一.00	七〇,五二九.00	六八,二九三.00
患難者	費	一六,〇三三.00	一七,一〇三.00	一六,九四八.00	一九,六八九.00	二四,五八〇.00
	費	八七四.00	八七四.00	八七四.00	八七四.00	八七四.00
試験	費	八,九九九.00	九,三三五.00	九,二八六.〇〇	一〇,〇〇五.00	一〇,〇〇五.00
	費	三三,三三〇.00	三四,一三一.00	三四,七四〇.00	三四,二〇九.00	三六,七〇七.00
修繕	費	二,四三三.00	二,九七六.00	二,九七六.00	四,八一〇.00	四,四八八.00
	費	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00
恩給	給	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00
	給	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00	二,四三三.00
合計	計	三二,九七七.00	三三三,二四二.00	三三〇,〇七九.00	三五八,四四三.00	三七五,九〇五.00
豫備	費	一,〇〇〇.00	一,〇〇〇.00	一,〇〇〇.00	一,〇〇〇.00	一,〇〇〇.00

歳出臨時部

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
建築費	費	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00
地購入費	費	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00
調辨費	費	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00
合計	計	三二,九七七.00	三三三,二四二.00	三三〇,〇七九.00	三五八,四四三.00	三七五,九〇五.00

二、決算

歳入經常部

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
建築費	費	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00	一七,二六五.00
	費	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00	一〇,〇〇〇.00
地購入費	費	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00
	費	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00	三三,二六五.00
合計	計	三二,九七七.00	三五四,五〇〇.00	三四八,八八八.00	三五八,四五五.00	三七五,九〇五.00
用品賣拂代	代	四,四四四.00	七,四八三.00	二,四八六.00	四,二五二.00	九,四〇五.00

科 目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
患者遺留金	—	—	—	二八、三六	—
各府縣分擔金	三〇、九四二・九九	二九、二七四・〇〇	三四三、七四〇・〇〇	三六、七九〇・〇〇	三四四、六八一・〇〇
癩豫防協會委託患者費辦償金	四、七二六・〇〇	六、一六五・六〇	五、七四七・四〇	三、九二九・四〇	四、八八二・九〇
光明園委託患者費辦償金	一〇、一四四・〇〇	八、八〇六・三五	二、三〇一・三	—	—
職員納付金	四〇〇・三八	五五九・九三	五六九・九七	五六六・八一	五四〇・一五
恩給分擔金	四八三・〇九	四八三・〇九	四八三・〇九	四八三・〇九	四八三・〇九
合 計	三三〇,一〇〇・二〇	三〇八,〇三八・〇〇	三五三,〇六四・五四	三四二,二〇九・一七	三五二,一七三・六五

歳入臨時部

科 目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
繰越金	二、三三〇・〇〇	—	—	—	—
寄附金	—	—	—	—	—
合 計	二,三三〇・〇〇	—	—	—	—
歳入總計	三三二,四三〇・九七	三〇九,一三一・三六	三五三,一三三・九六	三四七,三八一・〇五	三五四,二九八・八五

歳出經常部

科 目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
俸給	三九,〇三二・七三	三〇,六六九・六一	三〇,六二四・八四	二八,七五〇・三六	三七,七四四・九九
雜給	六、六七四・〇八	六、七五六・八七	六、九四八・四七	七、四七五・〇七	八、九三二・〇〇
患者給	一四九、八六九・九七	一四九、〇一八・四四	一六八、五三三・七三	一六九、九〇六・三二	一九九、八二二・九九
試驗費	八六三・三八	六二九・七〇	四七六・一六	六九九・四三	六四七・六七
修繕費	八、五〇九・二八	八、九七七・九七	九、一四五・九三	九、二八一・〇六	九、六四三・二二
雜費	三九、八七四・八四	三三、七六六・五	三三、一七四・九四	三三、三八三・六三	三三、四三三・六
恩給	二、三三三・〇〇	二、八九四・〇〇	三、六三四・〇〇	三、一〇九・〇〇	四、九六六・〇〇
合 計	二八二,二〇七・二八	三〇九,四三三・九四	三二五,〇四三・〇九	三二八,八七九・八五	三五四,一九六・八一

歳出臨時部

科 目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
建築費	—	—	—	—	—
初年度調辨費	二五、七三・三三	—	一六、九七・七八	—	—
合 計	二五,七三・三三	—	一六,九七・七八	—	—

科	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
敷地購入費	一三、四九九・〇		一四、九四六・二		
合計	三八、八七〇・三		三二、九七九・九	二五、〇九〇・〇	
歳出總計	三二、〇七七・六	三〇、四四三・四	三四、六六〇・〇	三四、六八八・八	三五、四一六・八

三、患者一人當經費

年次	經常部決算		食費決算		治療費決算		被服費決算		當該年度中收容患者數
	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	
昭和六年度	二九、五七・八	四・七七	一五七、六三・七	二・六三	二二、三二・八	〇・五八	五、六五四・五	〇・二	三八、一九七
昭和七年度	三〇、八九・六	四・七七	一六、〇六・四	二・五〇	二二、九九・七	〇・五七	五、四四八・六	〇・二	三九、五九八
昭和八年度	三三、九三・三	五・七五	六四、八四・四	二・五八	三、八七・七	〇・六六	六、三九九・三	〇・一六	四〇、一七八
昭和九年度	二四、二〇・六	六・二	七〇、四八・八	二・七〇	二、七八・七	〇・五三	八、〇五七・九	〇・〇	三六、六五三
昭和十年度	二六、七〇・四	六・五九	八三、四〇・九	二・九七	二五、二六・四	〇・五〇	六、七九・八	〇・一八	三六、八九九

第四 治療

昭和十一年度	二八、一〇七・八	六・六四	八六、三四・九	二・九四	二六、五三・七	〇・〇	七、七四・九	〇・一八	四一〇、〇六六
昭和十二年度	三〇、四八三・四	六・八六	九、八七三・三	二・〇〇	二八、六六・〇	〇・〇	九、四二・三	〇・一〇	四一八、五八三
昭和十三年度	三三、〇四二・〇	七・〇	九、三六二・六	二・三二	三〇、九三・八	〇・六九	九、三三・七	〇・一〇	四二二、二一八
昭和十四年度	三三、八七九・八	七・二	九、八三六・二	二・三三	三〇、一三・〇	〇・六八	九、〇〇・三	〇・一〇	四三三、二六七
昭和十五年度	三三、一六六・八	七・九八	一四、四四・〇	二・〇	二四、七九・九	〇・五五	一〇、八四・四	〇・一四	四三三、八三五

備考

- (一) 當該年中收容患者延數欄△印ハ癩豫防協會委託患者延數、(大)印ハ大阪委託患者延數ナリ
- (二) 一人一日當總經費及雜費ハ癩豫防協會委託患者並大阪委託患者延數ヲ合算出セリ

現今癩ノ治療トシテ推獎スベキモノハ大風子油ナリ。本國ニ於テハ厚生省衛生試驗所製ノ大風子油ヲ使用セリ、本油ハ主トシテ「ヒドノカルブスアンテルミンチカ」及ビ「ヒドノカルブス、アルビーナ」ノ種子ヨリ搾取セルモノヲ謂フ。之ヲ攝氏百二十度前後ニ熱シテ消毒滅菌シ、臀筋肉或ハ大腿上膊等ノ皮下ニ一回二・〇—五・〇ccツツ一週三回注射シ一箇年百回—百二、三十回ニ及ビ數年間連續ス。只嚴寒ノ候ニアリテハ藥液ノ吸收不良ナルヲ以テ二、三週間休止スルコトト

大風子油ノ有效ナルコトニ就テハ既ニ一般ノ認知スル處ニシテ、コノ注射ニヨリ斑紋、結節、浸潤ノ吸收消失、潰瘍ノ治癒眉毛頭髮ノ再生等臨床上ノ著明ノ效果ヲ認ムルノミナラズ癩菌ノ皮膚粘膜等ヨリ破壊消滅スルノ狀ヲ顯微鏡下ニ證スルコトヲ得、即チ之等組織標本ヲ鏡檢スルニ初メ無數ノ癩菌ヲ宿シタル癩細胞ハ次第ニ癩菌ヲ失ヒソノ消滅ノ場所ニ脂肪樣體ノ顆粒ヲ含有セル一種ノ空泡細胞ニ變ズルヲ認ムルナリ。

然レドモ斯ノ如キ機轉ノ全身各組織ニ一齊ニ起ルヤ否ヤニ就テハ疑問ノ存スル處ニシテ何レカノ部分(神經内或ハ小血管ノ内皮細胞内等)ニ於テ癩菌ハ依然トシテ變化セズ潜伏生存ヲ續ケ一定ノ期間(多クハ六、七年)ヲ經過シ、身體ノ抵抗力ノ減弱アラシカ警ヘ大風子油注射ヲ繼續シツ、アルニ關ハラズ、再ビ活潑ナル繁殖ヲナシ病狀ノ増悪ヲ來スコトアルハ屢々認ムル處ナリ。斯ル再發生ノ結節浸潤ニ對シテハ大風子油ノ效力モ初發生ノソレニ比シ著シク劣リ容易ニ病勢ヲ輕快鎮靜セシムルコト能ハザルハ甚ダ遺憾ナリ。近來斯ル場合沃度加大風子油「エチール、エステル」ヲ局所的ニ結節内ヘ
○二一〇・三ツツ數回注射スルコトモヨリテ其ノ結節ハ概ネ吸收スルヲ見タリ、然レドモコノ方法ハ個々ノ結節ニ就テ行ハザルベカラザルノ煩アルヲ缺點トナス。

從來入園者ノ多クハ發病後數年以上ヲ經過シ病症ノ相當進行シタル後ナリシヲ以テ假令該症狀著シク輕快セル場合ニ於テモ輕快退園セシメ得ラル、モノハ極メテ稀有ナリシガ近時ノ入園者中ニハ發病後餘リ時日ヲ經過セズ從ツテ比較的輕症ナルモノアリテ之等ニ對スル所謂早期治療ハ甚ダ有效ニシテ輕快退園セシメ得ラル、モノ漸次多キヲ加ヘ來リシハ喜バシキ傾向ニシテ本年中ニ於ケル輕快退園者ハ二十二名ヲ算ス。

大風子油及ビソノ製劑以外近時試用セラレツ、アル藥品トシテハ諸種ノ金製劑硫黃製劑「アンチモン」製劑白金製劑等アルモ未ダ大風子油以上ノ效果ヲ舉グルノ域ニ達セザルヲ遺憾トス。

次ニ患者ニ對スル治療的處置ノ概況ニ就テ述ベンニ、本園ニ於テハ患者ヲ收容スルヤ初メノ數日間ヲ防疫的意味ニ於テ收容患者病室ニ居ラシメ、癩ノ各症狀及ビ其ノ他ノ傳染性疾患、合併症等ノ有無ヲ檢診シ然レ後其ノ症狀ニ應ジテ或ハ一般患者ト共同生活ニ入ラシメ或ハ重症患者病室ニ移ス等夫々適當ナル處置ヲ講ズ。

一般入園患者ノ診療ハ醫官及ビ醫官補七名ノ醫師ニヨリテ分擔シ便宜上内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、物理療法科、齒科口腔科、繻帶交換科等ニ分テリ。

内科ニ於テ多ク見ル病症ハ癩菌ノ破壊吸收スル時ニ發スル癩性結節性紅斑ニシテ同時ニ神經痛、關節痛等ヲ併發スルコト多シ、本症ハ患者間ニ於テ「熱癩」ト唱フルモノニシテソノ經過ハ數週ヨリ永キハ年餘ニ亙リ煩ハシキ發疹、發熱ヲ反覆シ爲ニ身體衰弱シテ結核性疾患ヲ誘發シテ死ノ轉歸ヲトルコトアリ。本症ニ對スル療法トシテハ輕症ナル者ニハ三%クロールカルシウム液ノ靜脈内注射ヲ毎日行フ事ニヨリテ良好ノ結果ヲ來スコトヲ得。近時本症ノ重症ニシテ高熱ノ繼續スルガ如キ者ニ對シ「ネオ・スチバルサン」○・一五—○・三ノ靜脈内注射ヲ行ヒテ屢々好結果ヲ收メツ、アリ。又激烈ナル關節痛ヲ伴フ場合ニハ「銀エレクトロイド」ノ皮下又ハ靜脈内注射ヲ施シテ相當效果ヲ認メツ、アリ。癩性神經痛モ亦屢々來ル症狀ニシテ患者ノ最大苦痛トスルモノナリ、此ノ療法ハ局所療法、鎮痛劑、鎮靜劑ノ内服或ハ「テトロドキシリン」「アンチピリン」等ノ皮下注射「クロールカルシウム」ノ靜脈内注射「ノボカイン」ノ神經幹内注射等ニヨリテ概ネ好結果ヲ得ルナリ、更ニ近時之等ニ赤外線療法ヲ併セテ試ミツ、アリ。「モルヒネ」等ノ麻酔藥ハ一時的ノ鎮痛作用アルモ習慣性トナリ、中毒性ニ陥リ易ク患者自身ノ不幸タルノミナラズ甚シキニ至リテハ療養所内ノ秩序ヲ亂シ一般社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルノ懼レアルヲ以テ本園ニ於テハ「モルヒネ」類ノ使用ヲ嚴禁セリ。

其ノ他ノ内科的疾患トシテハ結核性諸疾患ノ外癩性腎臟炎ヲ屢々見ル、本症ハ患者ノ死因中重要ナルモノナリ。外科的治療ノ大ナルモノハ繻帶交換ナリ。癩結節或ハ浸潤ノ崩壞ニヨリテ生ズル癩性潰瘍ノ處置ハ大多數ノ患者ニ就テ

行ハザルベカラズ。斯ル患者ハ日々數百人ニ及ブ。癩性潰瘍足穿孔症ニ對シテハ、リバノール、沃度ホルム、或ハ種々ノ軟膏類ヲ症狀ニ應ジテ使用ス。

又人工太陽燈ノ照射モヤ、見ルベキ效果アリ、手術ヲ要スル患者モ亦多數ニシテ喉頭ノ癩結節又ハ浸潤腫脹ニヨル狭窄ハ窒息死ヲ招ク危險アルヲ以テ氣管切開手術ヲ行ヒテ之ヲ救フ事屢々ナリ、深疽、火傷、足穿孔症等ノ爲ニ手足骨ノ壞疽ヲ來セルモノハ之ヲ除去セザルノミナラズ、時ニハ下腿ノ切斷手術ヲ要スルモノ亦尠カラズ、然ラズンバ全身ノ敗血膿毒症ヲ惹起スルノ懼アレバナリ。又神經ノ浸潤肥厚シテ激烈ナル神經痛ヲ來セル場合ハ神經鞘剝離手術ヲ施シテ良好ナル結果ヲ得ツ、アリ。

眼科の疾患トシアハ癩性角膜炎、外翳膜炎、虹彩毛様體炎、續發性白內障等多ク爲ニ失明ニ陥ル者モ尠カラズ從ツテ是等ニ對スル處置ハ極メテ必要ナリ。就中虹彩切除手術ハ瞳孔閉鎖症及ビ角膜溷濁ノ瞳孔領ヲ覆ヘル場合ニ推奨スベキ手術ナリ。

失明統計

計	女	男	收容患者數		失明者數	
			結節	癩	神經	癩
一、三〇九	四二三	八八六	一六二	七	五	一六七
二三九	七	七	六	一	一	八三
二五〇						

備考 失明者ハ兩眼共一米ノ距離ニ於テ指數ヲ辨シ得ザル程度以下ノモノ。

鼻腔咽喉ノ粘膜ハ癩ノ好發部位ナルヲ以テ耳鼻咽喉科的治療モ亦忽ニスルヲ得ザルナリ、鼻翼或ハ鼻腔内ノ癩性潰瘍浸潤ニヨル鼻道ノ崩潰或ハ狭窄、閉鎖又ハ咽喉狹窄等ニヨル呼吸障害、之等諸症ニ續發シ易キ慢性中耳炎等ハ最も多キ病症ナリ、之等ニ對シテハ夫々一般的ノ適當ナル處置ヲ施シツ、アリ。

右ノ如キ診療上重症ニシテ特別ナル加療ヲ要スルモノハ重症者病室ニ入ラシム、重症室ハ十一室約二百床ヲ有シ夫々擔任ノ醫員、看護婦ヲ定メテ一般病院ニ於ケル入院治療ノ如クシ、尙輕症患者ヲ附添ハシメテ服藥衣食其他看護ノ補助ヲナサシメツ、アリ。

第五 患者ノ生活狀態

本園ニ收容セル患者（一、三〇九名十二月末日現在）ハ四十九病舎ニ分住セシム、概ネ一舎ヲ四室トシ之ガ一室ハ十二疊半ニシテ六、七名ノ患者ヲ容ル、少年舎及家族舎ハ一般ト異ナリ八疊乃至十疊ノ室トス。

然シテ此等四十九舎ヲ輕症舎（三十四舎）、不自由舎（十五舎）ニ大別シ、更ニ輕症舎ヲ男子舎（十八舎、女子舎八舎）、少年舎（二舎）、少女舎（一舎）家族舎（六舎）ニ區別ス。

男女輕症舎ハ自治的ノ制度トシ各舎ニ一名ノ舎長（任期一箇年選舉制）ヲ置キ其ノ舎ノ整理、衛生、衣食、作業等ノ世話ヲナサシム。

少年少女舎ハ十八歳未満ヲ收容シ各舎ニ寮父母（患者）ヲ置キ少年少女ト同居生活ヲ爲シ調育ニ當ラシム。家族舎ハ戸籍上ノ夫婦ヲ同棲セシム、現在ノ家族三十二組ナリ。不自由舎ハ盲人及ビ手足不自由ニシテ自用ヲ辨シ能ハザルモノ、又ハ六十歳以上ノ老人等ヲ收容シ、各室ニ一人若クハ

二人ノ輕症ナル患者ヲ附添ハシメ衣食其ノ他ノ世話ヲナサシム。現在收容數三九四名ナリ。
精神病舎ハ別ニ棟ヲ設ケテ之ヲ收容シ附添人ヲシテ監視介輔ニ當ラシム。現在ノ精神病患者數十六名ナリ。
而シテ一般輕症患者ハ午前ハ概ネ治療時間トシ午後ハ各種ノ作業ニ従事ス、輕症患者ニシテ重症トナレルモノ又ハ餘病併發ノモノハ別ニ設ケタル重症室ニ收容シ快復後ハ自舎ニ歸合セシム。

一、衣 食

(イ) 被服寢具 患者一人ニ對シ貸與又ハ給與スル被服寢具ハ左ノ通り定メタルモ戰時下物資需給困難ナル爲メ出來得ル限リ長期間修理使用セシム。

品名	品質	數量	貸與ノ別	時期上	期使用	備考
綿入	三河黒綿	一	貸與	十二月	三年	
半	同(綿入)	一	同	十一月	三年	
裕	同	一	同	十月	二年	
單	三河白綿	二	同	六月	二年	
襦	綿	一	給與	六月	二年	
肌	晒木	一	給與	十二月	二年	死亡、退園ノ際ハ返納セシム
肌	男メリヤス、女メリヤス、女袖半襦袢	一	給與	十二月	二年	
着(冬)	男メリヤス、女袖半襦袢	一	給與	十二月	二年	
着(夏)	晒木	一	給與	六月	二年	
襦	綿	一	給與	六月	二年	
單	三河白綿	二	同	六月	二年	
裕	同	一	同	十一月	三年	
半	同(綿入)	一	貸與	十二月	三年	
綿	三河黒綿	一	貸與	十二月	三年	

二年毎ニ一枚貸與

死亡、退園ノ際ハ返納セシム

品名	品質	數量	貸與ノ別	時期上	期使用	備考
又(男)	冬メリヤス	二	同	十二月	一年	
引(男)	冬メリヤス	一	同	十二月	一年	
卷(女)	冬メリヤス	二	同	十二月	一年	
腰(男)	冬メリヤス	一	同	十二月	一年	
帶(男)	冬メリヤス	一	同	十二月	一年	
同(女)	冬メリヤス	一	同	十二月	一年	
足	更紗	一	同	七月	二年	女兒ニハ兵兒帶
手	コイル天石底	二	同	七月	二年	附添人ニハ外ニ一足給與(一月)
掛	晒木	三	同	十二月	一年	
敷	晒木	二	貸與	十二月	一年	内一枚ハ十二月一日ヨリ三月三十一日マデノ間貸與
大	表三河木綿	一	同	同	同	
小	綾織木綿	一	同	同	同	
包	綾織木綿	一	同	同	同	
枕	三河生木綿	一	同	同	同	
枕	同	一	同	同	同	
覆	同	一	同	同	同	

備考

- (一) 右ノ外重症患者ニハ病衣、附添患者ニハ看護衣、醫局雜役ニ胸掛、理髮作業患者ニ作業衣及胸掛、髮結患者ニエプロン、薬運搬及火種配給患者ニ雨合羽、洗濯患者ニゴム長靴ヲ各舎ニハ蚊帳ヲ貸與ス。
- (二) 新調被服ハ全患者ニ一齊ニ貸與シ從來使用中ノモノヲ返納セシム。
- (三) 貸與期間中ト雖モ甚シク破損シタルモノハ隨時新品若クハ修理品ト交換セシム。

- (四) 返納品中修理使用ニ堪ヘ得ルモノハ消毒洗濯修理ノ上次回ニ之ヲ貸與ス。
- (五) 被服被具ノ調製及修理ハ女患者中心得アル者ニ之ヲナサシム。
- (六) 洗濯ハ各自ニ出來得ルモノノ外ハ洗濯場ニ於テ之ヲ行フ。
- (七) 入園ノ際携帶ノ私物衣類ハ園規ニ觸レザル物ニ限り使用セシム。

(ロ) 食物

(1) 主食

- (一) 普通食 一人一日混入米(内地米) 四四八瓦(三合二勺)
- (二) 粥 食 一人一食混入米(内地米) 百 瓦(約七勺)

尙戰時下國策ニ即應セル餽食ヲ月ニ數回給ス。

(参考) 米穀配給統制法實施以降麥ノ入手不能トナリタル爲白飯ヲ支給ス。

(2) 副食物

- (一) 概ネ野菜物ヲ主トシ時々魚介類獸肉ヲ給シ毎朝味噌汁ヲ與フ。
- (二) 重症患者ノ副食、重症者ニハ牛乳、鶏卵、砂糖等ヲ増給ス。
- (三) 御馳走ハ祝祭日、五節句、本國記念日、宗教上ノ諸儀式日其ノ他特殊ノ催アル日ニ於テハ園内飼育ノ豚、鶏ヲ調理シ又ハ刺身、章魚其ノ他ヲ給與ス。
尙間食トシテ果物、菓子、甘諸等ヲ給スルコトアリ。
- (四) 園内生産品、患者ノ手ニ依リ園内ニ於テ生産セル主ナルモノハ野菜類、牛乳、鶏卵及豚肉、鶏肉等ニシテ患者

慰安會ノ手ヲ經テ園之ヲ購入シ患者ニ支給ス。
本年中ニ生産供給シタル額ヲ表示セバ左ノ如シ。

品目	數	量	價	格	品目	數	量	價	格
野菜類	一三五	六九三	一〇	七九七・五二〇	鶏	一	六二三	一	六九〇・四二〇
牛乳	七、五七五		一、九一七	七〇〇	豚	五	八二	三二〇	一〇〇
鶏肉	二五		二五	〇〇〇	計	一四五、四九八		一四、七五〇	七四〇

(五) 其他魚類、野菜類ハ附近營業者及生産者ヨリ購入ス。

尙食糧品購入ニ對シテハ榮養價、品質、價格等ノ研究ヲ常ニ怠ラズ最良ノ方法ヲ講ジ居レリ。

(3) 調理配給

主食、副食ノ調理配給ハ共ニ職員ノ司厨士之ニ當リ而シテ患者飼育ノ豚若クハ多量ノ鶏ヲ屠ル時其ノ他特ニ手數ヲ要スル獻立ノ際ハ別ニ設ケタル患者炊事場ニ於テ患者ヲシテ一部若クハ全部ノ調理ニ當ラシム。

(4) 獻立表

本年中ニ於ケル獻立表ノ一部ヲ掲ゲ參考ニ供ス。

昭和十六年一月下旬獻立表

20	19	18	17	16
月	日	土	金	木
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁
大削味 根節噌	白削味 菜節噌	菜小削味 松 漬菜節噌	大削味 根節噌	白削味 菜節噌
七〇六五	七〇六五	三〇七〇六五	七〇六五	七〇六五
漬物乙	漬海物 物苔	焼魚	漬物乙	煮付
鮮醬澤 魚油庵	菜醬干 漬油海苔	日刺	卵醬澤 油庵	醬砂燒 油糖腐
一四〇	三〇四〇	一人二	一四〇	三〇一八
煮付	味噌汁	煮付	煮付	煮付
醬砂白豚 油糖菜肉	味辛豆白削 子 噌菜腐菜節	醬砂大鮮 油糖根魚	醬砂白油 油糖菜揚	味醬砂大鮮 噌油糖根魚
三〇一四	六二〇四二	三〇一〇	三〇一五	三〇一〇

六一

15	14	13	12	11	日
水	火	月	日	土	曜
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	
大削味 根節噌	白削味 菜節噌	小削味 松 菜節噌	白削味 菜節噌	辛削味 子、 菜節噌	朝
七〇六五	七〇六五	七〇六五	七〇六五	七〇六五	
漬物乙	澄汁	漬物乙	味噌汁	漬物乙	
鮮醬澤 魚油庵	醬小白干削 松 油菜菜ん節	燒醬澤 豆 油庵	味蠅 噌	卵醬菜 油漬	晝
一四〇	三五二四二	一四〇	六五	一四〇	
漬汁 物粉	煮付	甘煮	煮付	煮付	
醬菜餅砂晒 油漬米糖飴	醬砂白油 油糖菜揚	醬砂大牛人生 鳥 油糖根旁參賊	醬砂刻豚 昆 油糖布肉	味醬砂大豚 噌油糖根肉	夕
三〇一〇	三〇一五	三〇一五	三〇一〇	三〇一〇	

六〇

昭和十六年四月中旬獻立表

14	13	12	11	日
月	日	土	金	曜
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	
蒟蒻節噌 菜節噌	蒟蒻節噌 草節噌	辛子菜節噌	節米用蒟蒻草節噌	朝
七〇一六五	七〇一六五	七〇一六五	二五〇七〇六五	
雜炊	漬物乙	雜炊	煮魚	
醬辛大人里子 油菜根參芋	鮮澤甘魚庵薯	醬人辛蒟蒻子 油參菜草薯	醬砂鮮魚	晝
一四〇四四四〇〇〇〇	一三五六〇〇	一四四〇〇四〇〇〇〇	一三〇一〇	
味噌汁	佃煮	焼魚	甘酒	
蒟蒻油豚味 草揚肉噌	鱈子佃煮	棒刺	食白ソ海柑糯乾 酢糖口苔米瓢	夕
二七〇六〇〇五五	七五	一人五	一斗三人八二 一三五七二〇〇五	

20	19	18	17	16	15
日	土	金	木	水	火
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌
辛子菜節噌	蒟蒻節噌	辛子菜節噌	大根切干節噌	蒟蒻節噌	蒟蒻節噌
七〇一六五	七〇一六五	七〇一六五	一八〇六五	七〇一六五	七〇一六五
雜炊	漬物乙	雜炊	漬物乙	雜炊	漬物乙
醬辛大人里子 油菜根參芋	鮮澤甘魚庵薯	醬人辛蒟蒻子 油參菜草薯	金山寺味噌庵	醬大人里油根參芋	鮮澤魚庵
一四〇四四四〇〇〇〇	一三五六〇〇	一四四〇〇四〇〇〇〇	三八三五〇	一四二四四〇〇〇〇	一三三五〇
味噌汁	佃煮	焼魚	鱈鮓	浸シ	煮付
蒟蒻油豚味 草揚肉噌	鱈子佃煮	棒刺	醬砂長豚生鱈 油糖葱肉鮓	醬砂蒟蒻節草	味砂大豚噌糖根肉
二七〇六〇〇五五	七五	一人五	四三六一五〇〇〇〇	四三二〇〇〇〇〇	三四一〇一〇〇〇〇

昭和十六年七月中旬獻立表

15	14	13	12	11	日
火	月	日	土	金	曜
味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁	
胡大削味 瓜 漬根節噌	油夏削味 揚菜節噌	馬夏削味 鈴 薯菜節噌	馬削味 鈴 薯節噌	馬大削味 鈴 薯根節噌	朝
二〇八 〇〇〇五	二〇八 〇〇〇五	一五八 〇〇〇五	八一六 〇〇〇五	五三一 〇〇〇五	
刺 身	鱈 鮎	佃 煮	漬 燒 物 魚	漬 淺 網 汁 物	晝
胡醬大棍 瓜木 漬油根鮎	醬砂玉茄乾豚 鱈 油糖葱子鮎肉	小女子佃 煮	醬胡日 瓜 油漬刺	胡醬味淺 瓜 漬油噌網	
二五五 〇〇〇〇	九三三 〇五〇〇	七五	一人 三〇一	二一 〇三六 〇〇五〇	
カ レ ー	燒 魚	胡 瓜 モ ミ	味 噌 汁	煮 付	
醬小カ玉馬豚 麥レ鈴 油粉葱薯肉	樂鹽 京鱈 一人	醬食砂胡 油酢糖瓜	玉玉削味 菜葱節噌	醬小砂馬 女鈴 油子糖薯	夕
三一五 〇〇〇〇	八〇一	三一五 〇七〇〇	四四一 〇〇〇五	三一〇 〇四〇〇	

20	19	18	17	16
日	土	金	木	水
味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁	味 噌 汁
夏削味 菜節噌	馬削味 鈴 薯節噌	馬隱茄削味 鈴元 薯豆子節噌	隱削味 元 豆節噌	油夏削味 揚菜節噌
八〇一 〇〇六五	八〇一 〇〇六五	一五二 〇九九〇五	八〇一 〇〇六五	二〇八 〇〇六五
澄 汁	佃 煮	胡 瓜 モ ミ	澄 汁	鱈 鮎
玉隱削醬 菜元節油	アミ佃 煮	醬胡食 油瓜酢	胡玉玉削醬 瓜 漬菜葱節油	醬砂玉隱豚乾 鱈 油糖葱元肉鮎
三四二 〇〇〇〇	七五	三五〇 〇〇七	二〇四 〇〇〇〇	九三三 〇五〇〇
煮 付	鶏澤 卵庵	煮 付	煮 付	煮 魚
醬小砂馬 女鈴 油子糖薯	醬鶏澤 油卵庵	醬小砂馬 女鈴 油子糖薯	醬砂削オ 油糖節ピ ラメ	胡醬砂鮮 瓜 漬油糖魚
三一〇 〇四〇〇	二〇三 〇三五〇	三一〇 〇四〇〇	三一〇 〇五〇〇	二五五 〇〇〇一

昭和十六年十月中旬獻立表

20	19	18	17	16
月	日	土	金	木
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁
大削味 根節噌	里削味 芋節噌	大削味 根節噌	里削味 芋節噌	大削味 根節噌
八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五
餛飩汁	佃煮	漬物汁	焼魚	焼魚
醬削青乾 油節菜餛飩	昆布佃煮	菜小豆青醬 漬子腐菜油	鹽鱈	秋刀魚
三二八〇〇	七〇	三〇〇八五〇	一人一	一人一
煮付	菜煮込	煮付	鍋	五目飯
醬砂馬 油糖薯	醬砂削青 油糖節菜	醬砂馬 油糖薯	醬砂玉豚乾 油糖菜肉餛飩	菜醬砂人牛豚 漬油糖參莖肉
三〇一〇〇	三〇二〇〇	三〇一〇〇	四七九〇〇	三〇一五〇〇

15	14	13	12	11	日
水	火	月	日	土	曜
味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	味噌汁	
青削味 菜節噌	青削味 菜節噌	里削味 芋節噌	青削味 菜節噌	青削味 菜節噌	朝
八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五	八〇一六五	
漬物	漬物汁	焼魚	漬味噌汁	焼魚	
福神漬	醬菜淺 油漬鯛	鹽鱈 マカ漬	菜青小味 漬菜子噌	鹽鱈	晝
七〇	五〇〇二〇	一人三	三〇八二五	一人三	
煮付	煮付	菜煮込	煮カレ 込	煮付	
醬砂小オ 女ピラ 油糖子メ	醬砂馬 油糖薯	醬砂削青 油糖節菜	醬小カ玉豚馬 麥レ鈴 油粉葱肉薯	醬砂馬 油糖薯	夕
三一〇七八	三一〇〇〇	三二〇五〇〇	三一五〇〇	三一〇〇〇	

二、慰安及娛樂

癩ハ慢性難治ノ傳染疾患トセラ、方故ニ患者ハ稍々モスレバ精神ノ動搖悲觀ニ陥リ易ク自然ト信仰ヲ欲求シテ各宗教ニ歸依スル者多シ而シテ本園ニ於テハ各患者ノ信仰ノ自由ヲ認メ各宗教々師ハ園内禮拜堂ニ於テ特定ノ日ニ布教慰問セラ。今全患者ヲ宗教別ニスレバ左ノ如シ。

性別	宗教別				無宗教合計
	佛	教	信	者	
男	二八五	三〇〇	一八五	七七〇	一
女	一四七	一四四	七一	三六二	一
計	四三二	四四四	二五六	一、一三二	一、三〇九

而シテ眞宗ハ大谷派本願寺ヨリ日蓮宗ハ同宗務院ヨリ、眞言宗ハ高野山金剛峯寺ヨリ毎月布教師ヲ派遣シテ各宗教ハ好善社ヨリ毎月二回、楓十字會ヨリハ毎月一回宣教師ヲ定期派遣サル。

各宗團ハ教典ノ研究暗誦ニ熱心ナルノミナラズ其ノ派ニ屬スル重症者、極貧者ヲ慰安看護シ同病相憐ノ實ヲ擧ゲツ、アリ、而シテ祝祭日宗祖ノ記念日ニハ全職員患者一堂ニ會シ和氣霽々タル中ニ之ヲ祝フノ風アルハ本園ノ誇トスル所ナリ。宗教家ノ外社會教育家、社會事業家其他多數ノ名士各種ノ藝術ニ堪能ナル諸氏ノ慰問近年益々多キヲ加ヘツ、アルコトハ患者慰安上頗ル悦ブベキコトナリ、其他患者ノ春秋ニ催ス芝居、碁將棋、庭、野、卓球等ノ運動競技、餅搗、花祭、青

葉祭、クリスマス、會式、報恩講又ハ詩歌俳諧等ノ諸會ハ單調無味ナル療養生活ニ多大ナル慰安ヲ與ヘツ、アリ。其他浪花節、講談、芝居、映畫等ヲ開催シ又蓄音機、ラヂオ共同聴取装置等ノ設備アリ。

之等ノ慰安娛樂ノ事業ハ從來大部分管理知事ヲ會長トスル第一區府縣立全生病院患者慰安會ノ出資補助ニヨルコトハ本園當事者ノ常ニ感謝措ク能ハザル所ナリ。

更ニ又患者ニシテ病重リ失明或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起居不自由ナルモノ又ハ合併症ノ爲久シク病床ニ呻吟スルモノ多クハ何レヨリモ小遣錢ヲ受クル途アラザルヲ以テ之等不幸ナル人々ヲ慰安救護センガ爲ニ昭和六年四月財團法人全生互惠會ヲ組織セリ。本會ハ長クモ昭和五年十一月十日 皇太后陛下ノ御仁慈ニ依ル御下賜金ヲ基礎トシテ設立サレシモノニシテ購買部、農産部、印刷部、工藝部、裁縫部、牧畜部等ヲ經營シ、其ノ利益ヲ前記ノ目的ニ充ツ。

之ニ依ツテ重症者ノ慰藉セラル、コト實ニ大ナルモノアリ之レ偏ニ 陛下ノ御仁慈ノ賜ニシテ誠ニ有難キ極ミナリ。又財團法人癩豫防協會ヨリラヂオ、オルガン其他運動、音樂、演藝、映畫等ニ關スル器具ヲ寄附セラル、コトハ誠ニ感謝ニ堪ヘザル所ナリ。

三、風 紀

開園當時ニ在リテハ大部分浮浪患者ナリシヲ以テ風紀上遺憾ノ點少カラザリシガ漸次園内生活ニ親ミ來レルト同時ニ患者收容力ノ増大スルニ從ヒ自宅ヨリ入園スルモノ次第ニ増加シ風紀ハ逐次改善セラレ逃走ノ第一原因ト見做サル、賭博ノ如キモ大正八年以來全ク根絶シテ多年ノ陋習ハ一掃セラレ眞ニ平和ナル一大家族ヲ建設スルニ至レリト言フモ過言ニアラザルナリ。

四、教 育

開園當初患者ハ無教育者多カリシヲ以テ患者中教育ニ經驗アルモノヲ選ビ教師トナシ、普通教育ヲ施シ來リシガ近年兒童ノ入園増加シ四十名ヲ越ユルニ至リシヲ以テ之等年少者ニ對スル教育ニ深ク考慮ヲ拂ヒ昭和三年ヨリ職員中教育ニ經驗アルモノヲシテ其ノ任ニ當ラシメ國民學校ノ教科ニ準ジテ教授シツ、アリシガ昭和六年度ニハ新ニ七十坪ノ教育舎ヲ建築シ且ツ其ノ設備モ稍々充實セシヲ以テ全生學園ト稱シ町村國民學校ト大差ナキ教育ヲ施シ得ルニ至レリ。而シテ學園高等小學部卒業者ニシテ更ニ勉學ノ志アルモノ、又ハ年少時發病シ勉學ノ機會ヲ失ヒタル中年患者ノ爲補習科ヲ設置シ以テ知識ノ向上人格ノ陶冶ニ努メツ、アリ。嘗テハ一丁字ナカリシ者モ次第ニ向上シテ郷里ノ父母兄弟ト通信ヲナスニ至リ、又和歌、俳句ヲ理解創作シ各種ノ新聞雜誌ニ投稿シ入選スルモノ尠カラズ。

更ニ學校教育以外ニ青少年、少女團ヲ組織シ之ニヨリ青少年少女ヲシテ規律アル生活ヲ爲サシム、即チ青年團ヲ以テ警防團ヲ組織シ消防隊ヲ兼ネ訓練操作ヲナサシメ、少年少女團ニハ訓練奉仕作業ヲナサシメ大ナル效果ヲ收メツ、アリ。園内圖書館ハ本園見學ハ學生諸氏及篤志家ノ寄附ニ依リテ漸次充實シ圖書ノ閱讀及稗史小説ノ貸出ヲ爲セリ之ニ依リテ多數ノ盲目患者ハ團樂シテ小説ノ朗讀ヲ聞クコトヲ樂ミノ一トナシ居レリ。

又互惠會印刷部ヨリハ「山櫻」「芽生」「呼子鳥」「武藏野短歌」等ノ月刊雜誌或ハパンフレット等ヲ發行シツ、アリシガ用紙ノ統制等ニヨリ之等ヲ合同シ、月刊雜誌山櫻トナシ各患者ノ詩歌文章ヲ掲載シ園内患者ノ慰安ニ供シ他面外部ニ對シテハ園内平和ノ生活ヲ記述シテ社會ノ理解ヲ得ルニ努メ以テ癩ノ豫防宣傳ニ資セリ。

患者教育程度(入園當時ノ調査ニ依ルモノ)

教育別	男	女	計	教育別	男	女	計
無教育ノ者	五二	一〇五	一五七	多少文字ヲ知ル者	一五	一三	二八

五、作 業

患者ハ概ネ手足及ビ顔面ニ潰瘍ヲ有スルモノ多シ然レドモ重症有熱ノモノヲ除キ比較的健康ナルモノノ終日ノ閑居無聊ハ却テ病症ノ經過ヲ惡化スルノ虞レアリ、此ノ弊害ヲ除カンガ爲任意適當ナル作業ニ從事セシム。就中農業ハ其ノ目的ニ最モ適合シ尙身體ノ健康ヲ増進シ他面蔬菜ノ成育ヲ樂マシメ而シテ其ノ收穫品ハ園ニ於テ買上ゲ食膳ニ供スルモノナルヲ以テ園ニ取ツテハ大ナル經濟トナリ彼等ニ於テハ大ナル慰安トナル。

其ノ他各種ノ作業ニ從事スル者ニハ慰勞金ヲ給與シ之ヲ獎勵シツ、アリ。

左ニ作業別及慰勞金ヲ舉グレバ

- 甲 種 男 拾貳錢乃至拾四錢
- 女 拾錢乃至拾壹錢
- 内容 看護ニ從事スルモノ
- 第一乙種 拾錢乃至拾壹錢
- 内容 男子調髪、男子繙帶交換、洗濯、第一清掃、事務、土木、修理部、園藝、果樹、穀菽、工藝。
- 第二乙種 八錢乃至拾錢

卒業程度	男	女	計	中等教育程度	男	女	計
尋常小學程度	一八七	一一五	三〇二	中等教育程度	二五	八	三三
同 卒業程度	二九二	一一一	四一三	同 卒業程度	一五	四	一九
高等小學程度	九三	一六	一〇九	高等專門學校卒業以上	八	一	八
同 卒業程度	一九九	四一	二四〇	計	八八六	四二三	一、三〇九

府縣別	患者數		府縣別	患者數		府縣別	患者數	
	男	女		男	女		男	女
東京府	八六	五一	青森縣	一二	一六	岡山縣	三二	四
神奈川縣	四二	二四	福島縣	二一	二四	廣島縣	二二	二
新潟縣	四九	三〇	山形縣	一七	一九	島根縣	一一	一
埼玉縣	四一	二二	秋田縣	一	一	山口縣	一一	一
群馬縣	四〇	一四	京都府	四	五	香川縣	一一	一
茨城縣	二七	一四	大阪府	五	八	愛媛縣	一一	一
栃木縣	六六	一七	兵庫縣	六	六	長崎縣	一一	一
愛知縣	九一	三三	奈良縣	一	一	大分縣	一一	一
靜岡縣	一六	三三	三重縣	六	一	熊本縣	一一	一
山梨縣	四八	二二	岐阜縣	九	一	鹿兒島縣	一一	一
長野縣	四三	二五	滋賀縣	四	一	沖繩縣	一一	一
北海道	一六	六	福井縣	五	一	朝鮮	一一	一
宮城縣	一一	四	石川縣	三	一	本籍不明	一一	一
岩手縣	四	一	富山縣	二	一	合計	一一	一
合計	一一一	六六	和歌山縣	二	一	合計	一一一	一
	四一	二四	合計	一一一	六六		一一一	一

二、現在患者本籍地別表（昭和十六年末現在）

送致區別	體性		計	開園以來	死亡	退走	非園	輕	快	其他	計	在患者數
	男	女										
栃木縣	四一	三三	七四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
愛知縣	九三	七三	一六六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
靜岡縣	一〇	一六	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山梨縣	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長野縣	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
直接收容	一〇	一〇	二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一〇	一〇	二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一
五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲
二		二	一	三	二		五	八	五	五	四	二	四	七	一	三
四	一	一			三	二		三	二	一	四	一	一	四	二	六
六	一	三	一	三	五	二	五	一	七	六	八	三	五	一	三	九
七	一	八	六	一	九	四	九	六	七	九	四	二	七	三	〇	一
一	二	四	四	四	七	〇	四	七	三	五	〇	一	〇	九	一	六
八	三	二	〇	五	六	二	四	二	三	〇	三	四	三	八	四	二
九	一	〇	七	五	二	四	二	五	六	三	三	六	〇	三	二	〇
五	三	五	六	四	〇	二	五	三	七	七	五	二	四	五	四	一
一	四	四	五	三	九	二	六	三	〇	三	三	四	四	五	四	六

七七

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	八	七	六	五	四
七	六	五	四	三	二	一	〇								
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲
五	七	五	五	二	三	四	一	三	四	四	一				
三	四	四	五	三	四	四	五	七	五						
八	一	九	〇	五	七	八	六	〇	九	四	二				
三	四	三	三	三	三	二	二	一	一	六	〇				
一	六	九	四	一	一	一	六	七	五	三	五				
四	六	〇	九	四	六	四	八	二	八	四	六	九	五	二	
三	四	四	四	三	四	二	八	八	五	三	四	二			
二	一	三	〇	八	四	五	二	三	三	〇	六	二			
五	六	六	五	八	五	三	五	四	〇	二	二	二	〇	四	二

三、現在患者發病年齡別表（昭和十六年末現在）

七六

計	四 六 年	四 〇 年	三 九 年	三 七 年	三 五 年	三 二 年	三 一 〇 年	二 八 年	二 七 年	二 六 年	二 五 年	二 一 〇 年	一 九 年	一 一 年	一 一 年
二二															
九															
三一															
三一															
一															
四二															
一五五															
三三															
一八八															
二〇八															
五三															
二六一															

年 數 性 別	病 型 別	
	男	女
一 五 年		
一 四 年		
一 三 年		
一 二 年		
一 一 〇 年		
一 九 年		
八 年		
七 年		
六 年		
五 年		
四 年		
三 年		
二 年		
一 年		
計	一四	一三
男	一	一
女	一	一
計	一七	一四
男	一	一
女	一	一
計	二五	二五
男	一	一
女	一	一
計	六	六
男	一	一
女	一	一
計	〇	〇
男	一	一
女	一	一
計	三〇	三〇
男	一	一
女	一	一
計	三九	三九
男	一	一
女	一	一
計	五三	五三

四、患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數表 (昭和十六年中)

四	一犯	窃
一	二犯	
一	三犯	盜
一	以上犯	
六	計	横
一	一犯	
一	二犯	
一	三犯	
二	以上犯	領
二	計	
五	一犯	其
一	二犯	
一	三犯	
一	以上犯	
五	計	他
九	一犯	
一	二犯	
一	三犯	
三	以上犯	合
一三	計	

一〇、現在患者前科者調表 (昭和十六年末現在)

煙草製造工	人造肥料工	カIボン工	紙箱製造工	製靴工	時計修繕工	時計製造女工	自動車修繕工	製紙工	電線巻工	壓縮ガス工	織物工	同女工	製糸工	紡績女工	職業
一	一	一	二	二	一	一	三	一	一	一	一	一	三	一	男
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一〇	一	四	女
一	一	一	二	二	一	一	三	一	一	一	四	一〇	三	四	計
樵夫	炭焼夫	新開配達	料理人	鑛夫	火夫	船頭	水夫	馬力車夫	製糖工	印刷工	製圖器械工	陶器製造工	樂器製造工	インキ製造工	職業
一	二	一	三	二	二	二	二	二	一	四	一	四	一	一	男
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	女
一	二	一	三	二	二	二	二	二	一	四	一	四	一	一	計
計	無職	娼妓	藝妓	裁縫	子女守	女中	髮結	按摩	下番	畜丁	給仕	小使	運送店員	商店員	職業
八八六	一九七	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	二	二	一八	男
四二二	一六七	四	二	三	四	一六	二	一	一	一	一	一	一	一	女
三三〇	三六四	四	二	三	四	一六	二	三	一	一	二	二	二	一八	計

園內社會事業團體

第一府縣立全生病院慰安會
財團法人 全生互惠會

第一區府縣立全生病院慰安會規則

(大正三年十一月七日創立)

一、主 旨 書

癩病ハ古來遺傳病トシテ久シク顧ミラレサリシカ近來ニ至リ該病ハ彼ノ結核梅毒ト等シク危險ナル慢性ノ傳染性疾患ニシテ其醜惡ナル病竈ヨリ放散スル病毒ノ多大ナルコト普ク認承セラルルニ至リ明治四十年政府ハ癩豫防法トシテ法律第一一號ヲ發布シ先ツ赤貧ニシテ自ラ療養スル能ハサル患者ヲ隔離收容スルノ目的ヲ以テ全國五箇所ノ療養所ヲ設立スルニ至レリ第一區府縣立全生病院ハ實ニ其一ニシテ所澤ヲ東ニ距ルコト里許東京府下北多摩郡東村山村ニ在リ目下東京、神奈川、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、愛知、靜岡、山梨、長野ノ一府十一縣ヨリ送致セラレタル患者四百人ヲ容ル是等ノ患者ハ幸ニ官給ノ衣食住ニヨリテ何ノ不自由ナク加之出來ル丈ノ治療ヲモ施サレ居リ患者ニ取リテハ一見此上ナキ樂天地ナルカ如キモ如何セン彼等ノ病ハ已ニ膏肓ニ入り現今ノ文明醫術ヲ以テシテモ未タ全治セシムルノ域ニ達セス從テ彼等ハ將來ニ於テ退院ノ希望ヲ發見スル能ハス空シク此狹隘ナル小天地ニ於テ無味單調ナル生涯ヲ終ラサルヘカラス實ニ惘然ノ至リナラスヤ蓋シ國家カ癩病撲滅ノ爲メ犧牲トシテ彼等ノ自由ヲ拘束スル以上ハ彼等ノ慰安ニ努ムルハ勿論ニシテ全生病院ニ於テモ其設備ハ略ホ備ハレリト雖モ經費ニ一定ノ制限アリ充分ニ慰安ノ目的ヲ達スル能ハサルハ深ク遺憾トスルモノ、如シ若シ夫レ大方ノ慈善家ニシテ溢ル、カ如キ同情ヲ彼等ニ注カンニハ彼等ノ心中ノ喜ヒヤ蓋シ測ルヘカラサルモノアラン然リ而シテ今回篤志家ノ贊助ヲ得テ本會ヲ設立シ制限アル公費ノミニテハ充分ニナス能ハサリシ講話、說教並ニ演藝ノ開催、作業ノ慰勞並獎勵、娛樂品ノ設備、物品ノ給與、患者携帶兒ノ保護其他必要ト認ムル事業ニ對シ金品ヲ寄附シ

以テ患者慰安ノ目的ヲ徹底セシメントス翼クハ大方ノ紳士淑女此不幸ナル患者ニ同情セラレ奮テ本會ノ會員トナリ應分ノ助力アラシコトヲ望ム

二

大正三年十一月

第一區府縣立全生病院慰安會

二、第一區府縣立全生病院慰安會規則

- 第一條 本會ハ第一區府縣立全生病院患者慰安會ト稱ス
- 第二條 本會ハ第一區府縣立全生病院收容患者ヲ慰藉スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ノ事務所ヲ東京府北多摩郡東村山村第一區府縣立全生病院內ニ置ク
- 第四條 本會ハ患者慰安ノ方法トシテ左ノ事業ヲ爲ス
 - 一 講話、說教、演藝等ノ開催
 - 二 作業ノ慰勞
 - 三 娛樂品ノ設備
 - 四 患者攜帶兒ノ保護
 - 五 患者慰安ノ爲必要ナル物品ノ給與

六 其ノ他必要ト認ムル事業

第五條 本會々員ハ名望家慈善家ヲ以テ組織シ左ノ四種ニ分ツ

- 一 名譽會員 本會ノ事業ニ特殊ノ功勞アル者
 - 二 特別會員 一時ニ金拾圓以上寄附ノ者
 - 三 正會員 毎年金壹圓以上五箇年間寄附ノ者又ハ一時ニ金參圓以上寄附ノ者
 - 四 贊助員 多少ニ拘ラス金品寄附ノ者
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ總テ無報酬トス但シ書記ニハ報酬ヲ與フルコトヲ得
- | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 會長 | 一名 | 副會長 | 一名 | 顧問 | 若干名 |
| 評議員 | 若干名 | 幹事 | 若干名 | 書記 | 若干名 |

第七條 會長ニハ東京府知事ヲ推ス

副會長ニハ東京府學務部長ヲ推ス

顧問ニハ第一區域聯合府縣地方長官ヲ推ス

評議員ハ第一區域聯合府縣並其ノ他必要ト認ムル處ニ置キ會長之ヲ囑託ス
幹事ハ會長之ヲ指名ス

書記ハ常務幹事之ヲ任免ス

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

顧問ハ本會ノ經營ニ關シ意見アルトキハ會長ニ提出スルモノトス

三

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要事項ヲ議決ス
 幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス
 會長ハ幹事中ヨリ常務幹事壹名ヲ指名シ幹事ヲ代表シテ會務ヲ處理セシム
 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 本會ニ委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑託シ會務擴張ノ事ヲ掌ラシム

第十條 本會ハ毎年一回評議員會ヲ開ク但シ會長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十一條 本會ハ毎年一回幹事會ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第十二條 評議員會及幹事會ハ會長之ヲ召集ス

第十三條 幹事會ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス

一 本會毎年ノ歳入出豫算

二 本會諸規則ノ改正

三 其ノ他必要ト認ムル件

第十四條 評議員會又ハ幹事會ノ議長ハ會長之ニ當リ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス總テ決議ハ出席者多數ノ意見ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 本會經費ハ寄附金及其ノ利殖金ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 本會ノ會計年度ハ四月ヨリ起リ翌年三月ニ終ルモノトス

常務幹事ハ毎年度會計收支決算書ヲ作り會長ノ決裁ヲ經テ評議員會ニ提出スヘシ

第十七條 會員ハ何時ニテモ會計帳簿ヲ閱覽シ且本會ノ事業其ノ他ニ付テ意見ヲ述フルコトヲ得

第十八條 金員並物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ謝狀ヲ送り氏名及目錄ヲ簿冊ニ登載シテ永久ニ保存ス

第十九條 物品、現金並有價證券ハ常務幹事之ヲ保管ス但シ現金並有價證券ハ郵便局又ハ確實ナル銀行ニ預金スルコトヲ得

第二十條 本會經費ニシテ殘餘ヲ生シタル場合ハ本會基本金ニ編入ス

第二十一條 本院ノ廢止又ハ都合ニ依リ本會ヲ解散スルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ現在ノ金品ヲ他ノ慈善事業ニ寄附ス

●財團法人全生互惠會 (昭和十六年二月十一日創立)

一、事業要項

第一項 相互扶助作業ノ獎勵及援助

本國ハ開國當初ヨリ一大家族主義ニ立脚シ相互扶助精神ノ涵養ニ努メシ結果現在千三百餘名ノ患者ハ恰モ一家族ノ如ク身ハ悲惨極リナキ病魔ト闘ヒツ、家族ノ一員トシテ重症者ノ看護ニ或ハ公益事業ニ或ハ精神修養ニ關スル種々ナル事業ニ從事セリ、然レトモ病重キニ至レハ多年功績顯著ナリシモノト雖モ之レヲ顧ミル者ナク空シク病床ニ悶々トシテ生ヲ終ルヲ常トス、本會ハ斯クノ如キ功勞者ニ對シ社會ニアル恩給制度ニ準ス可キモノヲ設ケ聊カナカラ其ノ功績ヲ推賞シ以テ將來此ノ種ノ事業ニ從事スルモノヲ獎勵援助シ他面相互扶助精神ノ向上ニ努メ以テ 皇太后陛下ノ優渥ナル恩召ニ副ヒ奉リ兼ネテ本國ヲシテ理想的療養所トラシメンコトヲ期ス。

第二項 重症者ノ慰安及救済

本園ニ現在收容セル患者千三百餘名中大部分ハ生家貧困ニシテ彼等ノ必要トスル金品ノ送付ヲ受クル能ハサルナリ。然レトモ未タ病輕症ナルモノハ園内諸作業ニ従事シ日々四錢乃至拾四錢ノ慰勞金ヲ受クルモ重症ニシテ收容當時ヨリ病室ニ呻吟シ作業ニ従事シ能ハサルモノ或ハ從來作業ニ従事セシモ一度重症トナリ長ク病床ニ臥シテ再ヒ立ツ能ハサルモノ或ハ失明シテ咫尺ヲ辨セサルモノ或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起臥スラ自由ナラサルモノ、或ハ肺結核、心臟病、腎臟病等ノ如キ合併症ノ増悪シタモノ或ハ癩性熱衰弱ノ甚シキモノ等カ長ク病床ニ看護ヲ受ケ養中一錢ノ貯ヘナキニ至リタルニ於テハ其ノ心細サト周圍ノ稍々富メルモノヨリ受クル刺戟ニ依ル痛苦トハ到底想像スル能ハサルナリ。而シテ之等重症患者四百名中差當リ救済ヲ要スルモノ約二百五十名ニ達ス、之等要救患者ニ毎月若干ノ小遣ヲ支給シテ物質的慰安ヲ與ヘ引テハ之ヲ精神慰安ニ及ホシ將來全患者ノ大部分カ陥ル可キ失明重症ノ運命ニ對スル煩悶、焦躁、憂慮ノ念ヲ去リ安心立命ノ境地ニ達セシメントス。

第三項 農業其ノ他産業ノ經營及獎勵

耕作及牧畜ハ患者ニ對シ唯一ノ持久的慰安作業ニシテ此レニ依リテ新鮮ナル野菜及肉類、鶏卵、牛乳等ヲ園内全般ニ供給シ、又其ノ他ノ手工製作品ハ目下園内自給ヲ主眼トスルモ將來若シ生産多量ニシテ消毒可能ナル場合ニ至レハ園外ニモ供給スルヲ至ラシメントス。

第四項 賣店ノ經營

本園ノ賣店ハ所謂消費組合ニ類似スル組織ナリ。即チ過去十數年間公費ノ及ハサル患者日用雜貨ハ小賣商人ノ手ヲ經テ購入セシモ中間商人ヲ利スルノミニシテ患者ハ高價ニシテ疎惡ナル物品ヲ入手シ且ツ商人ハ永續セス種々ノ不便尠カラス故ニ昭和三年五月患者共有金若干ヲ資本トシ賣店ヲ

開キ商品ヲ大量ニ購入セシメ會長監督ノ下ニ患者ヲシテ販賣ノ任ニ當ラシメシナリ。然ルニ近來一箇月四千餘圓以上ノ賣上ケアリテ純益約一割ヲ上クルコト容易ナリ。茲ニ本會ハ此ノ賣店ノ權利義務ヲ繼承シ以テ全患者ヲ利セントスルニアリ。

第五項 印刷出版及學藝ノ獎勵

本會ハ山櫻及「パンフレット」等ヲ發行シ以テ園内患者ノ文藝ニ依ル慰安並ニ精神的向上ヲ計リ外部ニ對シテハ園内ノ平和ナル生活ヲ記述シ社會ノ同情ト理解ヲ得ルニ努メ以テ瘡ノ豫防宣傳ニ資スル所有ラントス。

第六項 其ノ他理事會ノ決議ニ依リ必要ト認メタル事項

上述セル第一乃至第五項以外ニ理事會ノ決議ニ基ツキ必要ト認メタル事業ヲ行ヒ以テ園内ニ於テハ本會所期ノ同病相憐、相互扶助ノ實ヲ舉ケ園外ニ於テハ瘡豫防運動ノ一助トナリ本病カ一日モ早クコノ光輝アル日本ノ國土ヨリ絶滅センコトヲ期ス。

二、寄 附 行 爲

第一章 名 稱

第一條 本會ハ財團法人全生互惠會ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本會ハ 皇太后陛下御仁慈ノ思召ヲ體シ多磨全生園收容患者相互扶助ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一 相互扶助作業ノ獎勵及援助

- 二 重症患者ノ慰安及救済
- 三 農業其他産業ノ經營及獎勵
- 四 賣店ノ經營
- 五 印刷出版及學藝ノ獎勵
- 六 其ノ他理事會ノ決議ニヨリ必要ト認メタル事項

第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ多磨全生園内ニ置ク

第四章 資産會計及贊助員

第五條 本會ノ資産ハ 皇太后陛下御下賜金、諸般ノ寄附金及本園收容患者ノ設立シタル農會試作部、全生賣店、山櫻俱樂部、互惠部ヨリ寄附セラレタル別紙目錄ニ掲クルモノトス (別紙略ス)

第六條 本會ハ理事會ノ議決ヲ經テ基金ヲ設クルコトヲ得

第七條 基金ハ理事五分ノ三以上ノ同意ヲ得會長ノ承認ヲ得ルニアラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第八條 本會ハ理事會ノ議決ニヨリ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第九條 本會ノ資産中現金ハ郵便官署其ノ他確實ナル銀行又ハ信託會社ニ預入レ若クハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ利殖ヲ圖ルモノトス

但シ特別ノ事情アル場合ニハ理事會ノ議決ニヨリ不動産ヲ購入スルコトヲ得

第十條 本會ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第十一條 本會ノ事業翼賛ノタメ寄附セラレタル金品ハ之ヲ受領シ其ノ金員ハ之ヲ基金ニ編入ス

但シ理事會ノ議決ニヨリ其ノ一部ヲ經費補充積立金ニ編入スルコトヲ得

寄附ノ目的ヲ指定シタルモノハ其ノ用途ニ充ツ

第十一條 每會計年度ノ終ニ於テ剩餘金アルトキハ基金ニ編入ス
但シ剩餘金ノ一部ニ限リ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十二條 本會ノ豫算ハ毎年度理事會ノ議決ニヨリ之ヲ定メ決算ハ理事會ノ認定ヲ經ルモノトス

第十三條 本會ノ會計年度ハ毎年五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十四條 本會ノ事業ヲ翼賛スルモノハ之ヲ贊助員ト稱ス

第五章 役員

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名
- 二 副會長 二名
- 三 理事 若干名
- 四 監事 若干名

第十六條 會長ハ多磨全生園長ノ職ニアルモノトス

副會長ハ多磨全生園職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐ス會長事故アルトキハ豫メ指定シタル順序ニヨリ之ヲ代理ス
會長、副會長ハ理事トス

第十八條 理事ハ之ヲ分チテ二種トス

一 甲理事ハ多磨全生園職員中ヨリ會長之ヲ選任ス

二 乙理事ハ多磨全生園收容患者中ヨリ會長副會長合議ノ上之ヲ選任ス

第十九條 甲乙理事ノ人員ノ割合ハ會長ノ決スル所ニ依ル

但シ甲理事十八名乙理事十二名以内トス

第二十條 對外問題ノ生シタルトキ乙理事ハ一切ノ權限ヲ甲理事ニ委任スルコトヲ要ス

第二十一條 監事ハ多磨全生園職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第二十二條 理事及監事ノ任期ハ一箇年トス但シ再任ヲ妨ケス補缺者任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十三條 理事及監事任期滿了ノ場合ニ於テ其ノ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十四條 本會ニ事務員若干名ヲ置ク

第二十五條 理事監事及事務員ニシテ其ノ職務上不都合ノ所爲アリタルトキハ會長直ニ之ヲ免ス免職セラレタルモノハ再任スルヲ得ス

第六章 理事會

第二十六條 理事會ノ職務權限左ノ如シ

一 歳入歳出豫算ヲ定ムルコト

二 決算報告ヲ認定スルコト

三 不動産ノ購入又ハ處分ヲ議定スルコト

四 寄附行爲ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト

五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項

第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス

理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十八條 理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

第三十條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 將來此ノ寄附行爲ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ且主務官廳ノ認可ヲ受

クルコトヲ要ス

第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第三十三條 農會試作部、全生賣店、山櫻俱樂部及互惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法人ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

以 上

昭和十七年十二月二十五日印刷
昭和十七年十二月二十八日發行

【非賣品】

東京府北多摩郡東村山町南秋津一六五番地

發行者 國立癩療養所多磨全生園

電話 所澤 一四二番
東村山 一〇五番

印刷者

東京府北多摩郡府中町九、八六一番地

中 丸 忠 雄

印刷所

東京府北多摩郡府中町九、八六一番地

府 中 刑 務 所
電話 府中 一〇〇番

終

